

に別れけるが其會友中より數名の後見人を撰び之に其財産を此婦人の萬事を委託せり余も亦其中の一人なりき斯くて彼は此若き婦人と結婚したしさて余に之を免さんことを乞へり余は之に答へて言へり余は此婦人の母寡婦なりきによりて定められたる後見人の一人なるが彼の母にして若し相手を撰まず如何なる世の人にも此婦人を嫁せしむるの心なれば其處置をなして別に余等の中に後見人を定めざりしなるべし然るに已に余等の中より後見人を定めたる所を以て見れば其心は此婦人を神の畏敬の中に教育せんを希望せしこと明かなり故に余若し神を畏れざるころの彼に此婦人と結婚することを許さば余は彼母より受けたる委託に背くもの云はざるべからず依りて余は之を許すこと能はず之を聞て彼は大に怒りて余に怨を懷きし其怨を報ふべき正當なる理由なきを以て空しくバルバドースに立歸れり其後彼は余がバルバドースに到ることを聞き余若し此嶋に到

着せし時彼の力にて能ふべくは彼は余を捕へて焼殺さんことを誓へり或る會友之を聞いて彼に向ひ余は何をなしたれば彼は斯の如く余を怨めるかき問ひしに彼は之に答へずして再び我必ず彼を焼殺すべしと言へり是に於て會友は亂暴に進む勿れ恐くは汝も亦速かに汝の旅路の終に來らんと言へり然るに不思議なるかな夫より十日斗りにして彼は劇烈なる熱病に罹りて死せり彼の身体は酷熱の爲に冒され人々は之を見て炭の如く黒くなれり云へりさぞ余が上陸せる三日前に彼の身体は已に地中に埋められ人々は皆是れ哀れなる例證なりと言ひ合へり斯くて余は未だ善く旅行すること能はざりしを以て島中の會友等は教會の爲に男子と婦人の集會をトーマス、ラウスの家に開かんことを決定せり余は此家に臥し居たれば何れの集會にも出席することを得て主の爲に有益なる職を爲せり其は彼等は教を受くべきこと多く又

注意と謹慎を怠りたるを以て種々不都合を生じたれば余は彼等に充分な洗ひ其家を清潔にして一點の汚物なからしめ而して其集會にありては互に或は辱かしめ或は誹謗する等の事なからんことを勧めたり彼等の使役する黒奴に關しては金を以て買ひ取りたるを其家族にて生れたるを問はず凡て神を畏るべきを教へ主に事ふるの道を知らしめ以て家々の主人は皆ヨシエアか言ひし如く我と我家とは共にエホバに事へんと言ふに至らんことを勧め且又監督する者共に命して是迄屢爲せし如く又今にも或は爲せる如く黒奴を無理非道に使役せずして柔和に使役せしめ而して勤め年終らば必ず彼等を放免せんことを勧めたり斯くして此等の集會に於て會友の徳を建て信仰と福音の聖なる順序により堅くせられん爲に主の靈と能力は多くの有益なる事を啓き給へり

余等は禮拜と又教會の事務に關して盛大且つ有益なる集會を開き

しに禮拜の集會には他人も多く見受けたり就中佐官ラインと云へる人の如きは頗る老實なる人にて余が述べたる教に甚だ感服し教會の後余に向て左の如く言へり「今我は汝はキリストを信ぜず又キリストの死をも信ぜざる者なりと誣ひて汝を悪く云へる者に對して充分論することを得べし其は汝が今述ぶる所を聞けば汝は我嘗て聞きたるに勝りてキリストを其諸の職に於て崇めたればなり」と斯くの如くして眞理を悟りし者島中諸處に起り僧侶及び奉教者等は爲に大に憤激せり余等の集會は凡て甚だ盛大にして聴衆毎に充滿一嫉妬多き僧侶及び奉教者等が官吏等を煽動せんと勉めしにも係はらず遂に政府の妨害を受けざりき斯くて僧侶等は此手段を以て其目的を達すること能はざりしを以て其中浸禮派に屬する人々町内に開きたる集會に來れり此集會は甚だ盛んにして種々の階級の人々も其中にありしが彼等は數多の人々を伴ひ而してジョン・ペンニマンが書したる惡意ある

認謗の論文を携へ來りて大に争論せり然れども主は余に智慧を興べ
 て彼等の虚構を破らしめ聽衆をして其心に満足を興へしめ給へり依
 りて争論を好める奉教者等も遂に其來りし目的を失へり然れども余
 等の敵の憤怒と怨恨は猶止まず彼等は無根の惡評を島中に流布して
 會友の名を汚さんことを勉めたり故に余は眞理を明らかにし且つ此
 等虚構の流言を辨じて會友の冤罪を晴さんが爲二三の會友と左の一
 書を草しクエーケルと稱する人民の名を以て此島の有司に贈れり
 クエーケルと稱する人民バルバドースの知事參事會市會其他
 本島文武の執權者に呈す
 我等は神キリスト、イエス眞理の聖書等を信ぜざる者なり杯と無根
 の虚偽謗の風評を流布して世人をして我等を厭嫌しめんと謀る
 ものあり此等風評の無根なることは數年來余等が世に公にしたる
 書籍及び宣告文によりて明なりと雖ども更に汝等をして一點の疑

なからしめん爲に我等は茲に明瞭に且つ信實に告白せん我等は神
 即ち永遠に在す全智全能の神天地万物の創造者万物の保護者たる
 神を信す此神は万物の上において世々讚美を得べく凡ての尊貴及
 び榮光支配稱讚及び感謝は今より永遠に至るまで彼に歸すべきこ
 さを信す我等は彼の愛み給ふ獨子彼の心に適ふイエス、キリストを
 承け又信す彼は聖靈によりて孕まれ處女マリヤによりて生れ彼の
 血によりて我等は贖ひ即ち罪の赦を得るなり彼は見るをえざる神の
 狀にして萬の造られし物の先に生れ彼によりて萬物は造られたる
 を即ち天に在るもの地に在るもの人の見ることを得るもの見るこ
 さを得ざるもの或は位あるもの或は主たるもの或は政を執るもの
 或は權威あるもの萬物彼に由て造られたるを承け又信す我等は彼
 は罪を贖ふ犠牲となり彼は罪を識らず其口には詭譎なく彼はエル
 サレムの門の外にて我儕の爲に其肉に於て十字架に釘ひられ彼は

葬られ而して我等の義させられん爲に父の能力によりて第三日に
 甦れり又彼は天に昇り神の右手に坐するを承け又信す此イエス
 は聖なる使徒と預言者の基にして又余等の基なり而して我等にキ
 リストイエスなる基の外に置かるべき基なきことを信すイエスは
 萬民の爲に死の苦を受け萬民の爲に其血を流がし而して我等の罪
 の挽回の祭物營に我等の爲のみならず徧く世の爲の挽回の祭物な
 ることを信す即ちマテマのヨハ子に彼に付て證して世の罪を
 負ふ神の羔を觀よと言ひしが如し(約一ノ二九)我等は我等の贖罪者
 救主即ち救の君は唯彼なることを信す(彼は罪と地獄及び來らんさ
 する怒より我等を救ひ惡魔と其工を滅す者なり)彼は婦の苗裔にし
 て則ち蛇の頭を碎くものにしてアルバ、オメガが始終なるキリスト、イ
 エスなり彼は(眞の)聖書に言へる如く(余等の)智、義、又贖なり彼の外に
 救あることなし何となれば天の下人間のうちに彼の外余等の救はる

べき者の名なければなり彼は余等の靈魂の牧者監督にして余等の
 預言者なり即ちモーゼが(往古)主なる汝等の神は汝等の兄弟の中よ
 り我に似たる一人の預言者を起さん其汝等に告ぐる凡ての言を聞
 くべし凡て此預言者に聽従はざる者は民の中より取滅さる(使徒行
 傳二ノ二二二三)と言て證せし預言者なり彼は即ち既に來りて我
 等に眞なる神を識るの智慧を賜へる者なり彼は其愛と生命の法に
 よりて我等の心を治め罪と死の法より我等を釋し我等は彼により
 て始めて生命を得るなり其は彼は生命を興ふる靈終のアダム天よ
 り降りたる主にして其血によりて我等を潔め又我等を活ける神に
 事へしめんが爲め死の行を去らしめて我等の心を潔むる者なれば
 なり彼は犯されたる神を犯したる我等の間を和らげて贖をなした
 る中保者なり彼は神の誓約即ち光生命恩恵及び平和の契約にして
 我等の信仰の先導となりて之を全うするものなり斯の如く我等は

凡て我等と共なる神、イマヌエル、天の人なる主イエス、キリストを信ずれば、即ち祭司の長が憤激して此人は褻瀆することを言へりと言ひ、祭司の長とユダヤ人の長老等が共に謀りて殺しユダが祭司の長等より銀三十を取りて之を賣り、祭司等が又守兵等に銀子を興へて我等が寝たる時々の弟子夜きたりて彼を竊みたりと彼に就て恐るべき偽言を吹聴せしものなり而して使徒行傳によれば彼が死より甦りし後祭司の長と長老等は此イエスの弟子にしてキリストと其復活を宣傳ふる者を密迫せり是れ即ち我等が我等の生命我等救はんとて承くるころの主なるイエス、キリストなり

聖書に關しては我等は聖書中に(彼後一ノ二)神に屬する聖人と聖靈に感ずて語りしとあるが如く聖書は神の聖人を經て靈によりて興へられしものなるを信ず我等は聖書は讀まれ信ぜられ且つ成就されたる之を成就するものはキリストなり(を信ず聖書は教誨と督

責また人をして道に歸せしめ又義を學ばしむるに益ありて神の人の完全を得て諸の善事を行ふに缺なからん爲め又キリスト、イエスを信ずるに因りて救を得しめん爲に智慧を予ふるものたるを信ず

(提後三ノ一六)我等は又聖書は神の言なるを信ず蓋し出埃及記第二十章一節にシナイ山にて授け給ひし十誡に付て神の一切の言を宣べて言たまはく云々とあり又黙示録二十二章十八節にヨハ子は我この書の預言の言を聞者に證となす若この書の預言の言に加へ或はこの書の預言の言を削る者あれば(言の字單數を用ぬ)云々とあり路加傳第一章二十節の我が言を信ぜざるに因りとあり又約翰傳第五章四十七節第十五章七節第十四章二十三節第十二章四十七節にも同義の字句あるを以てなり故にキリスト使徒及び神に屬する聖人等が稱へし如く我等は聖書を神の言と稱す

此外猶一の無根の謬言を流布せり曰く余等は黒奴に謀反を教唆し

たりと此事たる、余等が全心より憎み嫌ふ所にて凡て人の心を探り
 万事を知り給ふ主は之を知り給へば其事の最も忌み嫌ふべき虚言
 たることを余等の爲に證し給ふべし其は余等が黒奴に語りし所は
 全く彼等の言ふ所に反して黒奴等は實着にして神を畏れ其主人夫
 婦を愛し忠義を盡して能く其務むべき職に勉強すべきを勧めたれ
 ばなり友人等よ一家の主人にして其家族を教訓し又は他人其主人
 に代りて之を教訓するは是れ當に爲すべき職分にして決して過失
 にはあらずるべしアラハム、ヨシユアも又斯く爲せりアラハム
 の事は創世記第十八章十九節に見えたり曰く我アラハムをして
 其後の兒孫と家族とに命トエホバの道を守りて公義と公道を行は
 しめん爲に彼をしれり是れエホバ、アラハムに其會て彼に就いて
 言し事を行はん爲なりヨシユアの事は約書亞記第二十四章十五節
 に見えたり曰く汝等の事ふべき者を今日選らべ但し我と我家とは

共にエホバに事へん我等は實に余等に屬する家族と共に祈り之
 が爲に祈り又之を教へ之を誡むるは余等の免かるべからざる職分
 にして主の命令たることを信す即ち之に従はざれば主の怒を蒙む
 ることエレミヤ第十章二十五節によりて明なり曰く汝を知らざる
 國人と汝の名を顧ざる族に汝の怒を對きたまへとサテ黒奴及び土
 人(亞米利加の土人)等は此嶋に於て家族の多分を占む而して彼等も
 皆生者死者を鞠ん爲に來る主に各人其責を負ふべきものなり蓋し
 我等が黒奴に謀反を教唆したりとの此惡むべき誣言は我等が黒奴
 と共に或は黒奴を集めて集會を爲せしより起りしものなり何とな
 れば余の二三と會友は畑に於て集會を開き黒奴に正義、實直、廉
 節、清潔、敬神を教へ且つ其主人に忠義ならんことを勧めたればなり
 是れ皆我等を妬む者の惡心を以て等我に對して起したる誣言に全
 く反對するものなり

バルバドースに在ること三ヶ月以上にして其間或は會友を見舞ひ
 或は其集會を固め斯くて主が余を其處へ遣り給ひし職を盡したれば
 余は最早此島を去りてジヤマイカに赴くべきことを感ぜり依りて余
 は一千六百七十一年十一月八日ロベルト、井ツテルス、井リアム、エドマ
 ンドソン、ソロモン、エツクルス及びエリザベス、フートン等と共にジヤ
 マイカに向てバルバドースを出帆せり余等は速に且つ無事にジヤ
 マイカに達し余等の友なるセームス、ランカステル、ジョン、カアトライ
 ト及びジョージ、ハツチソンに再び出會せり此人々等は眞理の職に従
 事して働き居たれば余等も彼等と共に此大なる嶋の此處彼處に奔走
 せり此國の人民の多分は淫行邪惡なる者なれども一般には甚だ勇猛
 なり余等は大に職を爲せり其は眞理を悟りて之に歸せし者多くあり
 て中には世事に有名なる人もありたればなり余等は又歴盛大且つ
 靜穩なる集會をなせり斯くて余等はジヤマイカに殆んど七週間滞在

會友等を善良なる順序に導き且つ種々の集會を定めし後ソロモン、
 エツクルス一人を残して余等は皆メリーランドに向て出帆せり
 余等は一千六百七十二年一月八日は乗船せしが逆風の爲に船進まず
 一週間以上ジヤマイカの近傍に徘徊せり此航海は實に困難を極め殊
 にフロリダの灣を過ぐるべきの如きは風雨烈しくして甚だ危かりき
 然れども海と陸の幸にして風の翼に乗り給ふ大なる神は余等が斯の
 如く暴風雨に遭ひて網具を切り帆を失ひ船將に覆らんとして非常の
 困難を蒙りし時に彼は其權力によりて余等を無事に保護り給へり余
 等は實に主なる神は近くありて其耳は彼の人民の願を聞き給ふこと
 を感ぜり風雨非常に烈しくして水夫等大に狼狽し其爲す所を知らず
 只船の行く所に任せし時に當り余等は主に祈りしに主は恵を以て余
 等を納れ余等の願ふところを聞き風と海とを鎮めて好天氣を興へ余
 等をして彼の救を喜ばしめ給へり其權力は萬物を轄め風も海も之に

従ふ主の聖なる名は讀むべきかな

余等はジャマイカよりメリーランドに至る航海に六週乃至七週間を費せり已にメリーランドに達し余等はジョン・ホル子ヤトに出會せり此人は近日中葛イングラントに向て出帆せん企て居りしが余等が至るに及んで其企を變ト余等と共に主の職に働けり是より先き彼は近日中此地を去らんとするを以て離別を爲さんが爲め全州會友の總會を開くことを定めたり余等は幸に主の導によりて恰も其開會の日を上陸したれば直に臨席し是によりて全州の會友を一度に見ることの好機會を得たり此總會は甚だ盛大にして四日に亘り會友の外には他の人も多く來りしが中には有名なる人も見受けたり總會終りし後男子と婦人の集會を開けり余は又之に臨んで述ぶる所ありしに會友皆大に満足せり此後余等はクリフスと稱する處に到りしに此處にも又總會を開きたり

右二箇の總會を終り余等は組々に別れて眞理の職に出發せりゼームス・ランカステルとジョン・カアトライトは海上新イングラントに向ひツ井・アム・エドマンドソン外三名の會友は種々物の不整理なりしホルジニヤに向つて出帆しジョン・バルチヤットロベルト・ツ井ツデルス・ジョーシ・パツチソン及び余は當地の數名の會友と小舟にて東海岸に赴き第一日に集會を開きしに多くの人々喜んで眞理を受け殊に會友は大に安慰を得たり此集會は甚だ盛んにして天に屬する集會なりき翌日余等は陸路新イングラントに向つて出發せり或は森林を穿ち或は原野を過ぎ或は河澤を渡りて大に困難し二日の後ニュー・カッスルと稱する和蘭人の町に達せり余等は猶此町を出發し危險を冒してアラッエール河を渡り漸く彼岸に達することを得ても案内者なく之を雇はんすれば應ずるものなく偶應ずる者あれば賃銀高く余等大に困却せり依りて余等は案内者なくして不毛の地を通行せしに終日人

影或は人家を見ることなく或は火を燒きて森林に臥し或は土人の小屋に夜を明かせしこともありき此地は後西セルシーと稱せしが當時は英國人は一人も住むものなかりき一夜余等は土人の町に到り其家の家に泊りしに王は其妻と共に厚く余等を饗ひ其從者等も甚だ余等を尊敬せり彼等は席を布きて余等を寝しめたり然れども其日不獵なりしさて食物は甚だ不充分なりき余等又他の土人の町に泊りしに其地の王は英語を少しく解せるを以て余は彼を其人民に語りしに彼等大に余等を愛せり遂に余等は東セルシーのミツドル、タウンと稱する町に到れり此町は英國の殖民にして數名の會友ありしも此町より程遠からぬロング、アイランドのオイステル、ベイに開かるべき半年會に是非出席せざるべからざるを以て此處に留り集會を開くことを得ざりき故に余等はリチャルド、ハルツホルンと云へる會友を伴ひてロング、アイランドに向て出帆せり此人はロンドンの室具匠なるロニー

ハルツホルンの弟にして余等を其家に留めて厚く饗なし余等の旅の疲勞を愈さしめしに今又ロング、アイランドに到るにも其所有の船を以て余等と余の馬を乗せて此廣き海を渡せり海上半日以上を費せり斯くて其夜はグレー、アサンドに達し其地の會員の家に泊り翌日はフラツシングに到り又其翌日グレー、アサンドとフラツシングの數名の會友を伴ひつゝオイステル、ベイに到着せり半年會は翌日即ち一週の第一日に初り四日間引き續けり初め二日間は禮拜の爲の何人にも來會すること許したれば種々の人々を見受けたり第三日には男子と婦人の集會を開き教會の事件を相談せり此時余等は二三の惡人に會せり此者共は眞理を離れて偏執に陥り眞理の順序を妨げ之を守れる會友に逆へり彼等は是まで此地并に近傍に於て會友の集會を妨害せしに今又此集會を妨げんとせり然れども余は男子と婦人の集會をして彼等の妨害を免かれしめんと欲し彼等若し余等が守ること

に満たされ喜ばしき心を以て、各其故郷に向て出發せり。此年會全く終り會友各其故郷に歸るに及んで此處に旅行したる余等は主の命ト給ふ所に循ひて其職のある所に向つて離散せり。乃ちジョン、バル子ヤットはジョン、カアトライト及びジョージ、ハッチソンを伴ひ新イングラントより來りし會友と共に其地の集會を見舞はん爲に新イングラントに赴けり。ジョン、スタツプスとゼー、ムス、ランカステルも此人々と共に同ト真理の職に従はんさせしも用事の都合によりて果さざりき。ロベルト、ウヰッテルスと余は此地人民の心の大に啓かれたるを年會終り後諸方より船にて來りし人々の爲に主の職に従事して猶暫く此地に留り數日間彼等と盛大且つ有益なる集會を開けり。斯くて余等はプロビデンスと云へる所に集會を開きしに種々の人々來り集りて甚だ盛なりき。其後余等はロード、アイランドより二十哩許距離りたるナラガンセットと云へる處に行き知事も余等と同道せり。

此處にて或審吏の家にて集會を開きしに是迄會友等が集會を開きしことなきにも係はらず甚だ盛會なりき。人民の多分は未だ嘗て會友の説を聞きしことあらざりしも此集會によりて大に感づる所ありて大に眞理を慕ふの心を起せり。他の處にて余は二三の官吏等か若し充分の金あらば余を宣教師に雇ひたしと言へるを聞けり。其は彼等は未だ余等の主義を善く悟らざりし者なればなり。然れども余は之を聞きしとき斯く言へり。是れ余にざりて去るべき時なり。其は彼等斯の如く其眼を大に余と余等の中の者に注がば彼等は其眞の教師に到らざるべければなり。蓋し此事教師を雇ふことは人々天賦の力を發達進歩せしむる事を妨げ多くの人を誤らしめたれども余等の働は万民をして各自の心に在す教師に導かんとするにありたればなり。

フオックスは新イングラントよりカロライナに至りメリーランドに歸るまでの旅行に二年間を費せり。此間或は森林を過ぎ河海を渡り

或は船に腰れ山に臥し又 屢雨露に暴されり彼は會友其他の人々も屢盛大なる集會を開き又土人等とも之を開けり彼日へり土人等の舉動は甚だ愛すべき所ありと又日へり余が語りし所は彼等善く之を解せしが如く見えたりとカロライナに在りし時彼又右の如く言へり知事は其妻と共に余等を愛せり然れども其家により醫士は余等と爭論せり實に彼の爭論は神の光と靈に就て人々に語るの機會を與へたれば反りて大なる利益となれり彼等は神の光と靈は皆人に在らずと云ひ土人の如きは決して在ることなしと言へり依りて余は一人の土人を招き彼若し他人に對して偽言を言ふか或は過失をなしたる時に其心に於て之を責むるものなきかと問ひしに彼は之に答へて斯の如き時は之を責むるものあり而して若し過失をなすか或は偽言を吐きたる時は大に耻づる所ありと言へり斯くてアメリカの諸州及び數多の殖民地を巡廻し到る處各種の人

々の心を醒まし神の救の日を宣べ傳へて主の爲に善き職を盡せしを以て此地方に於ては最早用なきを覺り再び舊イングラントに歸らんことを思へり然れどもメリーランド州の總會近日に開かるゝを以て出發前に今一度會友等に會はんことを欲し其總會まで留まらんことを望み主も又之を許し給ふを感じり其總會は驚くべき榮光の集會にて皆主の大能の存在を見且つ之を感じり讚美と稱讚は常に万物を藉め給ふ彼の聖き名に永く歸すべし

此總會終はりて余等は會友等に離別を爲せり 各天の生命と主の能力を生きて一く感ト大なる愛情を顯はして互に別れを告げ余等は小舟にて乗船すべき處に行けり多くの會友等余等と伴ひ其夜は共に留れり翌日余等はイングラントに向つて出帆し四月廿八日にプリストルの港なるキンクスロードに投錨せり

其日午後の上陸しシヤルハンプトンに到り此處にて馬を求めて之に

乗り其夜プリストルに達せしに會友等は大きな歡を以て余等を迎へたり余は直に筆を取り無事歸着したる事を報せんと左の通り認めて之を余の妻に贈れり

親愛なる者よ余等は本日夕刻無事に海よりプリストルに到着せり世々榮光は万物の上にある主なる神に歸すべし彼は余等を護衛り進路を導き給へり彼は全地球の神海の神風にして雲を其車となし給へり神の榮光は言に盡し難し稱讚は世々彼の名にあれ彼は万物の上において全智全能の神なりアーメン
ロバルト、ウヰツ
デルス及びゼーメス、ランカステルは余と共にあり余等は皆壯健なり榮光は世々主に歸すべし彼は水の難、風雨の難、海賊強盜の難、不毛の地に於る難儀教師等の難より余等を救ひ給へり讚美は凡て彼に歸すべし其榮光は世々凡ての上においてありアーメン
故に新らしき生命を思ひ之において主に生くべし余は(主の御意ならば)定期市まで此地方に留まらんと思ふ別に申すべきことなし凡て會友に宜敷傳言せよ

一千六百七十三年

プリストルにて

四月廿八日

シヨージ、フォックス

此時より定期市までの間に余の妻は其婿トーマス、ローエル及び二人の娘と共に北方よりプリストルに來り他の婿シヨン、ラウスダブリー、ペン及び其妻并にゼラルド、ロベルツはロンドンより來り而して數多の會友も諸方より定期市に來りしを以て余等は力ある榮光の集會を爲せり主の涯りなき権力と生命は凡ての上に臨みたり余は其集會に於て感動を受けて三の形狀と三の教師に付て陳述せり即ち……
神は樂園に於て第一の教師なり而して人は其教の下にありし間は幸福なりき蛇は第二の教師なり而して人は其教に循ひて不幸に陥り墮落せりキリスト、イエスは第三の教師なり彼に就て神は此は我心に適

或愛子なり爾曹これに聴くべしと言ひ給ひ彼又自ら我に學べと言
 ひ給へり……故に男女共に再び神に到りキリストによりて神の狀
 義及び聖に改まるに及んで彼等は神の樂園に到り即ち人の未だ墮落
 せざる前の形狀に達し猶進んで高き形狀に達して決して墮落せざる
 キリストと共に坐するに至るべし故に万事神の子に聞くべし彼は救
 主贖主にして其生命を棄て其貴き血を以て其羊を贖へり……然
 るに或人は之に反對して假令キリストは其肉にありし時は弟子等とユ
 ヂヤ人等に語りし雖も其復活昇天の後に至りては彼今語らずと言
 へり之に對する答は左の如し曰くキリストが肉にありし時神は其子
 によりて語り給ひし如く子なるキリストイエスは今其聖靈によりて
 語り給ふ也
 此他又神の秘事を究知り之を顯はすところの永遠の靈は此集會に於
 て多くの貴重にして深遠なる事を顯はし給へり余は此市に於て余の

職を終りし後此處を去りてコロステル州に赴き屢盛んにして貴重
 なる集會をなす主の永遠の權力は凡ての上の溢れたりコロステル
 州よりリッ井ルト州に行き又屢幸福なる集會を開けりリッ井ルト州の
 ラッテンフォルドに於ても甚だ有益なる集會を催ふせしが婦人の集
 會に對し不同意を唱ふるものありて彼等大に余等に向つて争論せり
 蓋し婦人の集會は主の感動を受けてキリスト教會の利益の爲め余が
 會友に勧めたるものにて即ち是によりて眞理の信仰に召されたる忠
 實なる婦人は男子と同く生命と救の永遠なる福音の嗣子となり貴
 き信仰を奉じて以て福音の順序を得て之を行ひ社會有形の事件に
 於るが如く眞理の職教會の事務に於ても男子の補助となり又之に依
 りて神の凡ての家族即ち男子も婦人も共に神の家に於ける職務を知
 り之を行ひ之を盡し貧民は是より一層美はしき看護を受け幼者は神
 の道に教へられ放蕩無頼の者は訓戒を受けて神を畏るゝを知り結婚

する者に取りては神の智慧によりて清潔貞操を吟味するの便宜を得
 斯くて靈体即ち教會の會員は皆互に守り互に助けんが爲に設けたる
 ものなり然れども反對者等が大に爭論を試みたる後主の權力は其首
 謀者を攻撃したれば首謀者の精神頓に衰へ神の天の權力に反對せし
 ここの悪きを悟り其過失を會友の前に懺悔せり其後彼は己の罪を
 めて一片の文を作り文中左の告白をなせり曰く彼は主の火が彼の心
 中に燃え而して主の天使が其手に双を抜き將に彼を斬らんとするに
 至るまで彼は甘んじて抵抗したり余は屢彼に忠告せしも云々
 余はロンドンに歸るべきを感じたればキングストンを経てロンドン
 に歸れり蓋しロンドン其他各地の市町の會友等が祭日又斷食日と稱
 する日に於て店舗を開いて商賣を營みしこと官吏の前に引出され中
 には黙に繋がれしものありと聞きたればなり勿論斯く如き日を守る
 ことは會友の反對すべきことにて又是非とも反對せざるへからざる

ことなり主使徒等の時代にありて眞正のキリスト信者がユダヤの祭
 日と稱するものを守らざりし如く余等も使徒等の時代以來キリスト
 信者と稱する仲間なまに設けられたる異邦人并に天主教信者の祭日を守
 ること能はず其はキリストイエスによりて斯の如き日より救はれ更
 に上より生じたる日に導かれ遂にユダヤの安息日の主ユダヤの表式
 の寶物たるキリストに到りたればなり
 余は右の禍に罹りたる會友を救ひ且つ之を慰むることつとを務めてロン
 ドンに暫く滞在せし後當市の會友に別れて妻及び其娘ラチエルとミ
 ュドルセツキスのヘンドンに赴き夫よりヘルトフォールド州リクマン
 スチルスのリ井リアム・ペンの家に到りしがトーマス・ローエルも余の
 妻の娘の一人を娶りし者余等と共に北方に赴かんとし翌日此家に来
 れり余等は近傍の會友を見舞ひし後アイルスベリーの近傍にある會
 友の家に行き夫よりオクスフォールド州のアツテルベリーなるブレイ

ドイリーの家に到れり
 斯くて一夜余は夕飯を食しつゝありしに不圖捕はれたる如く感ぜし
 か何人にも之を語らざりき其翌日余等は出發して地方を經リーステ
 ル州に行きトレデングトン寺領内アームスコットなるジョーン、ハルフ
 オルドの家に到り其穀倉にて集會を開きしに主の力は余等と共に余
 等の間に著しく顯はれ甚だ盛大にして貴重なる會集なりき集會終り
 會友も多くは退散したる後余は残りし會友と語りつゝ客室にありし
 にヘンリー、ハーケルと云へる番吏ワリーク州のハンニトンの僧なる
 ローランド、ハインスを携へて此家に來れり彼等は集會終りて會友の
 多分は退散せざるまでは來らざりき彼等が來りし時は最早集會は終
 りたれども彼等の目的とする余が此家にありしを以てヘンリー、パー
 タルは來りて余を捕へ又トーマス、ローエルをも共に捕へり彼は余等
 に加ふべき何の罪状をも有せざりしと雖も余等兩人をリーステルの

獄に送れり

斯の如く四人の身となりて早くも四期の裁判までには許さるべき
 様子見へざりければ余等は二三の會友に托して余の妻と妻の娘を北
 方に送り余等はリーステルに送られたり然るに妻は最早其家に達し
 たるならんと思ひ左の如く認めて之を彼女に贈れり
 親愛なる者よ……汝は余が前きは獄の事に付て語りし時又余が捕
 はれし時少しく憂慮するが如く見えなれども主なる神の意に任せ
 て満足すべし其は余はキングストンのジョーン、ラッスの家に在りし
 時捕はれて囚人となりたる現象を見又オクスフォード州のプレイ
 ドイリーの家にありて夕飯を食せし時にも余は捕はれて艱苦を受
 くべき事を見なればなり然れども主の権力は万物の上において彼
 の聖き名は世々讚美すべきものなり

ジョージ、フォックス

斯くて暫く獄中に在りし後余等はリーステル州の知事ロルドウ井ン
ソル井に代理官其他諸役人の前に余等の事件を提出するは適當なる
事と思へり

然れども余等はロルドウ井ンゾルに訴へし事によりて更に何の得たる
事もなかりきトーマス、ローエルは其放免に關して家兄なる醫師ロー
エル(侍醫の一人)より、書状を受け又家兄の週旋によりてヘンリー
サビル侍従の一人より其兄ロルドウ井ンゾルに宛てたる依頼状をも得
たれども是れ皆己一身の放免にて余の放免には關係せざるを余を
愛し余を尊敬するの餘り彼は己一身の放免を求むることを欲まずと
云ひて書状は己の手許に留め置けり故に余等は次回の四期裁判に至
るまで囚人として繋かれたり

余等は裁判の末日即ち一千六百七十三年十一月十一日に至るまで呼
び出されざりき而して余等の呼び出されて法庭に出でしや裁判官等

は皆色青さめて暫時の間一言をも發せざりき故に庭内にありし一人
の屠者は彼等は恐れたるか裁判官等は彼等に語ることを能はざるか
言へり遂に彼等が語る前に當りて裁判官パーケルは法坐より一場の
演説を爲せり其主意は告訴状と同一にして間々慣用法を引證したれ
ども余等が犯したるものは其如何なる箇條なるか彼は之を示さざり
き且つ言へり余等兩人を獄に送りて地方人民に二百ポンドの損害を
蒙むらしめざるは頗る寛大なる處置なり其は彼若し集會條例を適用
したらんには人民は右の損失を負担せざるべからざればなり然れ
ども此事に關しては彼は甚だ無學なる者にあらざれば大に人を欺き
し者云はざるべからず何となれば彼が來りしは集會已に散したる
後にて又之を告知せし者もなければ集會條例によりて余等并に地方
人民を處分すべき證據なかりしなればなり

パーケル其演説を終りしや裁判官等は余等に向つて究問せんとて先

づトーマス、ローエルに向ひ彼が此地方に來りし理由を問ひたれば余
 等は充分に且つ明瞭に答辨せり究問中余は側より時々言語を交へし
 に彼等は之を制めて今彼の究問中なり余の番に來らば充分の時間を
 與へて自由に陳べしめ之を妨ぐるこさなかるべく又余等を陥るゝが
 如き事は決して爲ざるべしと云へり彼の究問終りしや彼等は余に向
 つて旅行の次第を問ひたれば余は前に記せし如くに告げ且つ一層詳
 かに之を語れり然るに裁判官パーケルは事件を仰山にせんが爲め余
 が捕はれたる家には人々の或はロンドンより或は北方より或はコー
 シラールより或はブリストルよりも來り居れり云へり余は之に答
 へて然り然れども是れ皆一家族に外ならず即ちロンドンより來りし
 者は余自身北方より來りし者は余の妻及び其娘コーンチールより來
 りし者は余の媚トーマス、ローエル、プリストルより來りし者は一人の
 會友なるが此の會友は商人にして恰も余等が獄に送られしによりて

余の妻と娘が家に歸るに道連を失ひ當惑したる折柄幸に來りしを以
 て乃ち妻と娘を依頼せし者なりと云へり余が陳べ終りしや裁判長(其名
 はシンプソン)といへる老人にして長老派の信者なりきは余に向ひ汝
 の親族は甚だ潔白なりと言ひて夫より暫時パーケルと相談せしが再
 び起ち上り「フオックス君よ汝は有名なる人なり凡て汝が陳べし所は眞
 實ならん然れども汝若し尊國王尊法王の誓約をなさば我等一層満足
 なりと言へり余は之に答へて「彼等は前きは余等を陥れざるべし」と言
 ひしに今余等が誓約を爲さるを知りつゝ之を余等になさしむるは
 是れ明かに余等を術中に陥るものなり」と言へり然れども彼等は遂
 に誓約を朗讀せしめたり朗讀終りしや余等は彼等に向つて言へり「余は
 生涯の中決して誓約をなせしこさなきも嘗て政府に叛きしこさなく
 余はリーステルの戦争に於てチャールス王に敵對せざりしを以て捕
 はれて六ヶ月間ダルビーの獄に繋がれ又嘗て集會に臨みしとてレ

ステル州より引かれてホリバル、クロムツエルの前に出でしが是又
 ヤールス王を位に即かしめんと謀りしとの嫌疑を受けしに由れり且
 つ汝等良心に於て知れる如く誓約はキリスト之を禁し給ひたればな
 リクエーケルと稱する余等は如何なる場合に於るも之を爲すこと能
 はざるなり然れども誓約中の實物に至りては余は之を承認すること
 を明言す即ちイングラントの王はイングラント王位の正當なる繼續
 者たるを承認し彼に對して謀反を企つる者は余之を惡み余の心中に
 は王と人民に對しては只愛も好意も存し彼及び彼等の繁榮を希望す
 るのみ是皆余の無辜を知り給へる主が知り給ふ所なり然れども
 王の誓約に至りては余は法王も其權威及び其宗教も皆悉く之を拒
 み心より惡むものなり斯の如く陳べつゝありしに彼等は叫んで彼に
 書籍を與へよと言へり余は之に應じて「書籍には記して誓ふる勿れさ
 あり」と言へり是に於て彼等は叫んで獄丁よ彼を退けよと命ぜしに拘

はらず猶續いて陳べたれば彼等は愈獄丁に迫り叫んで「彼を退げよ我
 等は此所に會議を開かざるべからず何故に彼を退げざるか此奴も獄
 丁を指して彼の説教を聞くを好む者か」と言へり依りて獄丁は余を引
 き出せり而して余は引出さるゝに際して手を擡げ主は余がキリスト
 の教を守るの故を以て余を獄に投ずる汝等を許し給ふべしと言て直
 に去れり斯の如く彼等は全國の面前に於て明かに其約束を破れり何
 きなれば前きに彼等は自由に陳べしむべしと言ひて今其自由を與へ
 す又決して余等を陥れざるべしと約しながら今誓約を持ち出し余を
 陥れんとしたればなり

余が引き出されし後トーマス、ローエルは猶庭内に残り居りしに人彼
 に已に放免されたりと告げたれば彼詰問して曰く余等は共に捕はれ
 て同一の事件なるに何故に余も彼の如く放免されざるかと然れども
 彼等は之に答へて「汝は已に放免されたれば汝に對しては最早言ふべ

きこさなし汝は行いて業務に従ふべし」と言ひ放ちて別に何事をも言はざりき故に閉庭後彼等の室に到り彼のみ放免して其父を拘留せし理由を問ひ且つ其所置は不公平にして彼等に取りては恥辱をすべきことあらすやと言さ彼等の熟考を促せり是に於てシンプソンは「汝若し満足せずんば汝も亦誓約を持ち出して汝も亦父の計に送るべし」と彼を威嚇せり彼は之に答へて彼等若し適當と思はゞ斯く爲すべし然れども彼等が送るに送らざるに係はらす行きて獄中に在る父に仕ふべし是れ當時其地方に於て其の務むべき職なりと言へり裁判官バークルは彼に向ひ「ローエル君汝等の開きし集會は盛大にして之が爲に寺領内の僧侶は其説教の聴衆甚だ僅少となりし程に壇家の多分を失ひしと我に苦情を訴へ來れり斯の如き確かなる理由あるに汝は我が父を獄に送りしは理由なしと言へるか」と言へりトローマス、ローエルは之に答へて「寺領の僧侶は其壇家を見舞ふ事甚だ稀なり」と聞く

年一兩度十分一税徴收の爲巡回することあり依つて斯の如く見棄られたる壇家を見舞ふは我父の慈善心に外ならず故に己の利益を貪らんが爲に而已來れる偽教師より只僅の安慰と利益を受くるところの人々を見舞ひ之を教へ且つ之を眞の教師キリストに導きしめて彼を獄に送るべき理由あることなし」と言へり之を聞いて裁判官等は大に笑へり其は博士クラオデル(彼等が言へる僧侶なり)は其時全席に在りたれどトローマス、ローエルは之を知らざりしを以てなりき此時クラオデルは知れ渡りたる事實なれば口を咄ひて敢て自ら辯護せざりしがトローマス、ローエルが去りし後裁判官等がクラオデルを愚弄せしを以て彼は痛く耻ぢ遂にトローマス、ローエルを被告とし名譽恢復を監督の廳に訴へんと告げたりトローマス、ローエルは之を聞きしや彼は此訴に答辨すべければ彼より先づ始むべし而して彼の全壇家を證據人に立たしむべしと言送りしが博士は大に閉口せり

裁判の期日終りしやウーステルのシエリフは保身律によりて余を國王の法廷に携ふべき命令を受けたり依りて副シエリフはトーマス、ロ
 ーエムを其代理として余をロンドンに送らしめたり余等は一千六百七十三年十一月二十九日にウーステルを出發せしが途上河水溢れて道路泥濘なりしを以て大に困難し十二月二日にロンドンに到着せり翌日余の到着を届けたればシエリフは直に命を受けて余を法廷に導けり彼等の方には四人の代言師ありて余に反對し辨論の末遂に法官をして余をウーステルの裁判に廻すべき裁決を爲さしめ而して余には只保釋人を立て、其裁判の時に至るまで謹慎することを得べしと告げたり然れども余は嘗て惡き行爲をなせしことなき旨を答へ且つ余は生涯中嘗て誓約をなせしことなきを以てウーステルに送られ其裁判に於て法官が誓詞を持ち出すも之を拒みて罪に陥るより外なければ態ウーステルに送らんより寧ろ當地に於て誓詞を試むべしと彼

等四人の代言師に言へり

余は一千六百七十四年一月の末日にウーステルに到着せしが法官は其翌日に到着せり法官は余に對する訴の理なきを知り其心には余を放免せんと思ひしも自ら其心を安せん爲めに遂に余の事件を再び法廷に提出せり
 此時より裁判期日に至るまで余は(身体保養の爲に自由を得たれば余を見舞に來りし人々と共に主の爲に職をなせり或日三名の國法に服はざる僧侶及び二名の代言人等余と論せんとて來りしが一人の僧侶は聖書は人生唯一の規矩なることを證明せんとせり是に於て余は先づ證據を擧ぐべしと彼に迫りし後此好機會に乗して聖書の正當なる用法之に對する職及び其貴重なる事を示し又各人を利せん爲に與へられたる神の聖靈并に万民に救を與へ万民に現はれ不信心と世の慾を退け以て此世に在りて廉潔正義敬虔の心を以て日を送るべきを教

ふるさこのろの神の恩寵を彼等に顯はし是れ則ち神の万民に與へ給ひし最も適當なる一般の規則にして万民の由りて以て其身を治め且つ之を指揮するものなりと言へり

或る日普通祈禱派の僧侶四五名の人々と共に來り余は全き人となりしやを問へり余は之に答へて我がくの如くなるを得しは神の恩に由てなりと言ひしに彼は是れ宜しきに適へる答なりと言へり是に於て彼は「もし罪なしと言はば是れ是みづから欺けるにて眞理われらに在るなし」と言へるヨハネの語を引き之に就いて余の意見を問へり余は又同使徒の「もし罪を犯したることなしと言はば神を誑る者とする也則ち罪を滅し罪を取り去らんが爲に來りし者の道われらに在るなし」といへる語を引き故に人々は其罪を犯したることなきを悟り罪を有てることを知り又其罪を悔い改めて之を捨てて以てキリストの血のすべて罪より我儕を潔むることを知るべき時ありと言へり是に於て又僧侶に向

ひアダムは其墮落せざりし前は全き者にあらざりしや又神の工は凡て全きものにあらざりと問ひしに僧侶は之に答へて「アダムが墮落せざる前の如く全くなりしともあり得て又彼の如く墮落することあり得べしと言へり然れども余は言へりキリストに在る全きはアダムの上に全きに勝利決して墮落することなし而して万民のキリストに在りて全からしむるはキリストの役者の服役にして彼等は其賜をキリストより受けたり故に全くなることを否むさこの者は即ち其服役の事并に聖徒を全うする爲にキリストが與へ給ひし賜を否むものなり」と僧侶は言へり余等は常に勵みて戦はざるべからず然れども余は言へり余等が決して勝つ能はざるべしと信して尙戦ふは實に悲しむべき不愉快なる事なりと又曰へり死の体よりと叫びしこのろのパウロは彼をして我主イエスキリストに由て勝を得しめたる神に謝せり故に勝を得ざるが爲に叫ぶべき時あり又勝を得たるによりて讃むべ

き時あり而してポウロはイエス、キリストに在るものは罪せらるること
 なしと言へり其時僧侶曰くヨブは全き者にあらざりしと余彼に告げ
 て脱けりヨブは完全き者にして悪を拒みしと神は言ひ給ひ尙ほ神は
 ヨブの周圍に藩屏を設け給ひしとサタン自ら白狀し而して此藩屏は
 有形の物にあらずして眼に見へざる天の力なりと是に於て僧侶曰
 くヨブの言に彼は天使を嘲り諸の天も彼の目には潔からざるなりと
 言へり余答て曰へり是れ汝誤れり
 斯く言ひしはヨブにあらずしてヨブと争ひしエリバズなりと僧侶又
 曰へり然らば聖書に義人は日に七次罪を犯すとあるは如何と余之に
 答へて聖書には實に斯の如き語あることなしと言ひしに之によりて
 僧侶も其口を塞けり此外余は裁判の開期に至るまで各種の人々に對
 して主の職に従事せり
 次期の裁判は二月廿九日に初り余は法官の前に呼び出されたり法官

の中には愛心を有つ者ありて他の法官等に余が誓詞を爲さしめんと
 するを留めたり然れども首座なる法官ストリートは法律に従はしむ
 べしと言へり故に余は再び獄に送られしが柔和なる法官の周施によ
 りて二時間を過ぎざる中に次期の裁判に至るまで放免せらるべしと
 の命令を受けたり
 此後間もなく會友の年會ありき余は次期の裁判に至るまで與へられ
 たる自由により此會に臨みしが其榮光は非常にして言語に盡し難き
 程なりき讀むべきかな主
 年會終り各地より來りし會友等大抵歸途に就きし後余は再びウー
 テルに向ひて出發せり是れ五月に開かるべき次期の裁判近づきたれ
 ばなり斯くて余は法庭に呼び出されて告訴狀の朗讀あるや之に付て
 陪審官の中に疑惑を生ぜし者あるを以て首座法官法官ストリートな
 りきは誓詞を朗讀せしめて余に再び之を爲さしめんとせり余は彼に

向ひ余は今告訴状の反響を試み且つ彼が更に誓詞を爲さしむるは新なる策畧にあらざるや否やを調べん爲に來りしと言ひしに法官は現に告訴状に誤謬ありしを以て余の言に逆はざりき余は更に今主の前に於て此誓詞は怨恨の心を以て爲さしむるにあるや否やを明かに答へんことを望みしに彼は之に答へずして反りて余に向ひて汝は我隣井に國中の人民を惱ます爲めに此處に來りしにあらすや」と言へり余は曰へり余は自ら來りしにあらすして旅行の途中捕はれて此處に携へられたるにて余は嘗て彼等を惱まさざりしも彼等自ら其心を惱ませるなり」と是に於て法官は余に對つて不幸なる宣告をなすべしと言ひしを以て余は彼が與へんとするものは果して判決なるや或は只通知なるやと問へり其は此告訴状中には已に指摘したる外猶多くの誤謬ありて余は之に付て論辨し以て斯の如き誤謬ある告訴状に基いて彼が判決をなすを拒がんと思ひたればなり法官曰へり彼は余の刑罰

の危険なることを示さんすとす即ち余は自由の權利を奪はれ凡ての財産は没収せられて更に終身禁獄に處せらるべしと彼又曰へり然れども是れ裁判の判決として宣告するにあらすして只教誡の爲に告げたるなりと次に彼は獄丁に命じて余を引き去らしめたり余は再び必ず宣告を受くる爲に呼び出さるべしと思ひしに傳聞する所によれば余が退きし後書記(其名はト井ツテ)が法官に向つて裏きに法官が余に告げし言は宣告を見做すべきやと問ひしに彼は二三の法官と評議の後之に答へて然り宣告として有効ならしむべしと言へり是は余が退きし後にありし事にて蓋し彼は全國より恥を受けんことを恐れて斯く爲せしなり

斯くて裁判は終り余は獄に繋かれし時に余の妻は余と共に居らんとして北方より來れり余は獄中にありて余等の主義を明かにして之を國王に知らしむるは嘗に己一身の艱難の爲にあらす余等の主義并に余

等は如何なる人民なるかを知らしむるに甚だ便益あるを悟り乃ち左の如く認めて之を國王に呈せり
國王に呈す

クエーケルの主義は余等の爲に死し余等の義させられん爲に魅り給ひしイエス、キリストの靈なり之によりて余等は彼の属たるを知る彼は其靈によりて余等の衷に住み余等はキリストの靈によりて不度不義より導き出さる此靈は國王或は何人に對しても隠謀叛逆を企つべからざるを教ふキリストの靈は凡ての不度を退くべきを教ふキリストの靈は又万民の安寧幸福を求めて平和に日を送るべきを教へ政府の劍を受くべき惡しき所業を遠ざからしむ而して余等の職務を希望ばキリスト信者と稱する者をして皆キリストの靈に在りて歩まいめんとするにあり斯の如くなるときは法官及び其他の官吏ら罰すべき罪惡減少し國王及び親王も其臣民がキリス

トの靈に在りて歩む時は之を恐るるに及ばざるべし善き靈の表現を各人に賜ひしは益を得せしめん爲にして何人も凡ての罪惡を惡ましむるころの神の靈によらずしては神の事に於て益を得ることなし

余等は良心并にキリストと其使徒の命令に循ひて誓約をなし能はざる人民なり余等若し全く誓約をなすことを得ば余等はチャールズ王は神の力によりてイングラントに携へられイングラント及び其他の國に於て嘗て余等を迫害せし者の上に國王として立てられたるを知るが故に尊王の誓約は余等喜んで之を爲すべし而して尊法王の誓約に至りては余等は斷じて之を拒むべし然れどもキリスト及び使徒は誓約をなす勿れ凡ての事は否に止むべしと命じたれば余等は其命令を犯すこと能はず故に余等を陥れんが爲に世の人々は屢誓約を持出せり右の次第なるを以て余等が誓約を拒むは頑

尚執拗或は輕蔑に出たるものにあらずして只キリスト及び其使徒の命令に循ふに外ならざるを知るべし此書を呈する者は國王并に主イエスキリストに在る彼の臣民の爲に永遠の幸福繁榮を希望する者なり

ジョージ、フォックス

此頃余は病に侵されて身体大に衰弱せしを以て會友の中には余の恢復を疑ひ余も又自ら墓の中にて死人の間に居るの心地せり然れども見えざる力は秘密に余を助け殆んど言ふこと能はざる程に弱はりし時すらも爽快なる力を與へ給へり一夜余は主の榮光凡ての上に在りしとこるの(に)在りて臥床の上に横はりつゝありしに主は余を取り給ふ前に猶余をして爲さしめ給ふ數多の職を備へ給へりと言へるを聞けり

此後余の妻はロンドン行き國王に謁して余が長き不當なる入獄に付

て陳べしが國王は慇懃に之を答へ掌璽官に到りて談すべきを命せり依りて彼女は掌璽官に到りたれども其望を達すること能はざりき何となれば掌璽官は日へり國王は赦免の令を發するにあらざれば余を免すこと能はず然れども余は嘗て悪事をなしたる覺なければ赦免を受くるを好まず余は眞理を汚して獄を出づるより寧ろ一生涯中獄中に留らんことを思ひたれば告訴狀の眞偽を法官の前にて吟味せんことを欲へり

斯くて余は何の理由もなくして一年二ヶ月程獄中にありし後告訴狀吟味の未誤謬を發見したるを以て赦免の令を受くることなく又別に義務約束を結ぶことなくして明に赦免せられたり而して主の永遠の能力は凡ての上に臨めり榮光と讚美は世々彼に歸し彼の名は涯りなく崇めらるべしアーメン

余は年會の至るまでロンドンの内外に滞在せり此年會には諸方の會

友相集り中には海外より來りし者さへありて神の永遠の力あらはれ
 榮光ある集會なりき年會終るや國會(會友)に對しては利益なる事も
 不利益なることも識せざりき亦た閉會したるを以て余はロンドンに
 於る主の職を免かれたり依りて市中の會友に別を告げ出發の前日
 ヨン、エルソンの家にて彼等と共に榮光ある集會を開きし後妻及び其
 娘スザンと共に馬車に(余は馬上にて旅行すること能はざりき)乘り北
 方に向ふて出發しスワルスモールに安着せり余が暫くスワルスモールに
 在りしや余を見舞んきて國內の諸方より多くの會友來りスコツトラ
 ンドよりも亦二三名來れり此人々によりて余は始めてロベルト、バア
 クレー及びビジョーシ、ケースが本年アベルデー、ン大學校の生徒と開き
 し討論會に於て四名の學生が眞理を悟りし事を承知せり
 余を見舞はんきて近傍より來りし者の中には佐官キルビーも見受け
 たり此人は嘗て大に余を迫害したる一人なりしが今彼は來りて余を

観迎する旨を陳べて表面には愛情を見せり然れども余がスワルスモ
 ールを出發する前に彼はアルベルストーンの巡査に使者を馳せ彼等
 をして余の許に至り余等はスワルスモールに於て集會を開くべから
 ず若し之を開くときは彼等はキルビーより命令を受けたれば之を解
 散すべしと余に告げしめんとして斯くて彼等は次の第一日に來るの預
 定なりき然るに其日は余等は猶スワルスモールに在りて有益なる集
 會を開き主の力は余等の中に驚く程に現はれ給へり而して之を妨害
 せん企てたる巡査は一人も來らざりき斯くて其後の集會も妨害を
 受くることなく益盛大に赴けり
 余はウーステルの獄中にて煩ひたる疾の爲に身体大に衰弱し再び元
 氣を復するは容易の事にあらずりき加之當時公私の爲に起艸すべ
 き事件數多ありしを以て北方に留まりし間は東西に奔走すること
 見合せ會友が余を在らざりし時は専ら眞理に關する書籍を著すこと

に時を費せり

余は又左の書翰を認めてロンドン年會の會友に遣れり

余が親愛なる會友及び兄弟よ主は其永遠の能力によりて幾多の艱難暴風雨牢獄の難より今日に至るまで守護り給へり故に各其信仰を神の能力に於て立つべし決して人に於て或は人の善き言語を以て組立たる演説に於て立つべからず何かなれば之を経験に徴するに人を崇め人に於て信仰を立つる者人民の信仰を彼等に立たしむる者は人望を愛し人民の信仰を神の能力に立たしめざる者はキリストを崇むること能はず斯くの如き者にして墮落する時は其後に從て墮落する者多し

彼等は啓示を與へしところの預言の靈及び力より遠ざかることも猶彼等は靈に其力の啓きしところの經驗を語ることを得べし然れども彼等若し神の靈光及び彼等の心を建て其言語を調和し其信仰を

神の能力に立ちて以て天國の基を建つるところの恩寵に在りて行かざるものは偽のキリスト信者の如くユダヤ人の如くアダムエバカインコラ及びペラムの如く又怡も周遊する星果實を結ばざる樹木水なき井雨なき雲の如くならん斯くて彼等は其味を失ひ人に踏るゝに至るべし神の永遠の眞理と生命の言を宣べ傳ふるところの會友及び兄弟は之によりて生き恩寵を以て調和し天の壇を以て建つて到る處行爲と品行とをして無言の説教をなさしむべし即ち輕卒なることなく聖靈を熄すことなく又男女の預言を輕んずることなく怠惰なる者なく往古のデマスの如く世俗の中に坐する者なく之を慰ふ者なかるべし然らざれば汝等恐くは初め被りしところの衣服を被るに至らん汝等凡て貞節を守るべし蓋し貞節は神の羔に循ふべきものなればなり
處々にありて役者たる會友は持つも持たざるが如く娶るも娶らざ

るが如くせよ其は神の燈を照し其光を遠きに及ぼさしむる神の油
 は凡て見ゆる物の頂上にあればなり
 此世に在りて消え去るころの變り易き物に富まんことを競ひ求
 むる勿れ汝等の信仰は變ることなき主即ち万物を創り之を長給ふ
 さころの神に立つべし會友よ神の溫和なる主義に循ひて万事溫和
 を守り汝等の間には勿論他人の間にも無益なる喧嘩口論をなすこ
 さ勿れ其は喧嘩口論は俗も軟柔なる艸木を損害する暴雨の如くな
 ればなり世の人々は言語を有てども生命なし使徒の彼等と争論せ
 るも蓋し彼等を生命に導かんが爲なりキリスト信者の間にあり
 て深淵割禮律法肉類飲料及び日の善惡等に就て争ひし者は遂に争
 論者中最も悪しき者となりて使徒等の責罰を蒙れり其は彼等は之
 によりて人々の信仰を失はしめられたればなり
 故に使徒等は各其信仰を神の能力に於て立て而して信仰の本たる

イエスを仰ぎ望むべしと教會に勧めたり各自の接枝も皆葡萄蔓な
 るキリストに立つときは暴風雨の爲に害を受くることなく全く安
 全ならん斯の如くなるときは信心を以て一の信仰一の魂一の靈
 を有し一の靈を以てバプテスマを受けて一體となり皆同く靈の
 飲物を飲むべし教會は一即ち天に屬する靈なる首は一即ち信仰の
 本にして其榮光を有ち給ふキリストなる首に在る信仰は一万事を
 定めバプテスマを施して一體になし給ふ主は一なり會友よ主の能
 力と眞理とによりて如何なる善事を囚人の身となり或は艱難に陥
 りたる會友に對して爲し得べきことを思へ彼等の告知彼等の救助
 に關し各自の能力と靈に任せて主の旨に従ひ主の職を盡すべし兄
 弟にして牢獄其他艱難辛苦に在るときは互に之を憐れみ之を慰む
 べし汝等は一の首一の主に在りて一體となりたるものなれば宜し
 く同情相憐の心を有すべし故に測るべからざるころの神の愛に

居れ神の愛はキリストの身の生ける肢の徳を建つ汝等は來りて其
 愛と聖なる信仰に建てられよ蓋し此信仰は其本キリストにありて
 其力に立つものなり此神の愛は汝等に万事を忍び万事を堪へ万事
 に望を興へしむ或は執政或は有能或は高き或は深き今ある者或は
 後あらん者或は牢獄或は物を奪ふ事或は死或は生も汝等がイエス
 キリストに頼れる此神の愛より汝等を絶らすこと能はず會友よ人
 の智慧が教へたる言語に於て神の事を語ることを謹めよ斯の如き
 言語は神の靈より迷ひたる愚者を崇む
 斯の如き言語及び智慧は罰を受くべきものにて之によりて崇めら
 れ之に於て神の事を語るも又罰を受くべし
 余は嘗て神より感動を受けて四季會月次會を各郡に設立すべき事を
 會友に勧めしが其後眞理は益國中に蔓延し會友の數次第に増加する
 を以て同一の永遠の能力により感動を受け又婦人會設立の事を勧め

たり其旨趣は福音と永遠の生命の言語を受けたる者は男女共に神の
 能力に導かれて福音の順序に來り其力にありて神の爲めに働き以て
 神の教會に於る義務と事務を處辨せしむるにありき忠信なる者は皆
 神の葡萄園に勞働せざるべからず蓋し彼等は彼の雇人なれば彼其靈
 の價(手着)を彼等に與ふ凡う外形の世界に於て人を雇ひ之に前金(手着)
 を與ふる者は必ず其人が己の意に従て事をなし遂げんことを望む故
 に新なる世界に屬し神の靈の價を受くることの神の人民も其靈と
 力にありて恩寵によりて且つ光の信仰を以て神の葡萄園に勞働せざ
 るべからず斯くて男女共に各神の工をなし終りたるときは神は其報
 酬として生命を興へ給ふべし然れども神の光恩寵及びキリストの靈
 に歩むものにあらざれば何人とも神の葡萄園に於て勞働し神の旨
 に従ひ其工をなすこと能はず蓋し人々をして斯の如きに到らしむる
 は即ち主に於る余が勞働にして現に之を爲し又是迄已に之をなした

るさころなり
然れども嘗て眞理を信し大に之を表彰せし者の中にて福音の單純な
去りて爭論破裂及び分離の靈に走りし者は敬神の目的を以て神の能
力に於て設立したり婦人會を攻撃し會友(殊に婦人)を失望せしめ以て
彼等が教會にありてより眞理に敬神の心を以て互に監督すること
妨げんと圖れり依りて余は神より感動を受けて左の書翰を認め之を
會友の中に贈れり

凡て余が親愛する會友よ平和の苗種なりキリストイエスに居れ汝
等は彼によりて生命を得汝等の間に來りて争を起さんとするさ
ころの靈はキリストの外にあるものなり此靈にある者余に言へり
彼等は婦人會に於て一の有要を認めず余が彼等及び斯の如き人
に對する答は左の如し曰く若し盲目にして見るこゝ能はずは他人
に反對すべからず其は彼等には一の責任あらざればなり蓋し神は

嘗て盲目者を供物に受け給はず其人民も亦之を受けざるべし然れ
どもキリストは万民を照らし彼を受くる者には彼は神の諸子とな
るべき權力を與へ給ふ斯の如くして彼等は彼の能力及び生命と永
生を光に導くさころの彼の福音の嗣子となりたれば己等を暗ます
さころの者は彼によりて之を辨識することを得べし斯の如き者は
福音の順序神の能力及び其能力に在る諸會を守るべし斯の如き者
は神の能力なる福音の順序に基きたる男子及び婦人の會の大に有
用なるを認むべし余は斯の如き會に反對する者ありせば嘗て思は
ざりき然れども之か爲に決して思を煩す勿れ眞理は彼等凡ての上
に臨み信仰必ず勝利を得べし其は福音も其順序は窮りなく苗種な
るキリストは始又終にして永遠に存し給へばなりアーメン汝等の
平和を得るは又之に由る

シヨージ フオクツス

余は當時爲すべき職務を終り、後再び南方に赴くべきを心に感じた
 れば、余は猶未だ衰弱して日々遠路を旅行し能はざりしも、一千六百七
 十七年一月廿六日にスワイルスモールを出發せり途中大に疲勞せし
 雖も主は無事にロンドンに到着せしめ給へり蓋し毎日遠路は乗らざ
 りしも身体疲れ居りしを以て連日の旅行は甚だ困難を覺えたり加之
 日々到着するところ會友の來訪を受け深更に至るまで或は之を勵ま
 し或は其足らざる所を忠告して充分晝の疲を愈やすこと能はず又偶
 寢床に就くも或は頭痛或は齒痛の爲に安眠することを得ざりき願ふ
 に此頭痛と齒痛は時々雨を侵して乗りし爲めに風邪を患ひしならん
 然れど主の能力は凡ての上に臨み余を安全に導きて彼を讀めしめ給
 へり

旅行中余は眞理を宣言する者の中に十分一税に反對なる古來の眞
 理の證據を守るに遅くして嚴ならざるを觀察せり何となれば教會に

分裂を生じ男子及び婦人の集會を攻撃する靈の入り處何れも十分一
 税に反對する證據を守る者を弱むることを常とせり故に余は主より
 感動を受けて彼等の中に純粹なる心を興し而して此非キリスト教の
 軛を壓抑に反對するキリスト教の證據に於て彼等を獎勵せんが爲に
 會友に贈る書翰に倣ひ短文を草して之を彼等に送れり

余がロンドンに着せしは三月二十三日にして年會より十二三日前な
 りき國中各地方よりは勿論スコットランド、ホーランド其他よりも多
 くの會友集り來りて余等は屢榮光ある集會を開き主の實在は盛に感
 ぜられ眞理の事は靈の賜ふところの一なるによりて圓滑に運び正し
 き心を有てる者は満足と慰を得たり讚美は今より世々主に歸すべし
 ホーランドに渡りて其地の會友を見舞ひ且つ獨逸の或る地方にも到
 りて福音を宣傳ふるは主の旨たるを感し乃ち之に赴けり彼は此職に
 三ヶ月を費せり余と共に渡航せし會友は井リアム、ペンロベルト、バア

クレイジヨージ、ケース并に其妻ジョン、フハーリー并に其弟ウ井リア
ム、テールコート、ジョージ、ソツツ及び余の妻の娘の一人なるイサベル
ヨーマンスなりき
エリサベス内親王に一書を贈らんと思ひアムステルダムにて認めて
イサベル、ヨーマンスに托せしが彼女はシヨルジ、ケースの妻と共に之
を携へ内親王に謁して親しく之を渡せり

エリサベス内親王余は汝に謁せしころの會友と余が自ら閱覽し
たる汝の書翰によりて汝が主及び其聖き眞理に對し温和なる心を
有てるを知れり位ある人は此世の奢侈逸樂に耽けり易きに汝の如
き地位ある人にして斯の如く主及び其貴き眞理に對し温和なる心
を有てるは實に大なる事なり位ある多くの人々は表面には種々の
方法を以て神及びキリストを言ひ顯せども其心に於ては深く神を
認むるの感覺を有せず蓋し此世の位ある者智慧ある者にしてキリ

ストの爲めに愚かなる者となり或は高き位を去りキリスト、イエス
の謙遜にありて賤しき者となる者は甚だ尠し彼等若し斯の如く謙
遜なる時は内なる聖靈及び神の光と力とによりて一層高き位と一
層盛なる王國を得べく又上より來る純粹なる平和なる智慧を得べ
し此智慧は天の下にありて地に屬する情慾惡魔の智慧即ち之によ
りて人々が其宗教禮拜及び教會等に關して互に滅ぼすころの智
慧に勝りて其上にあり蓋し下なる智慧は神及びキリストより來る
ものにあらず然れども上より來るころの智慧即ち心に神を畏る
ること其始となり万物のよりて創造せられたる智慧は人の心を清
潔にす此智慧により此智慧を以て凡て神の諸子は理められ万物又
之によりて整ひ神の榮光を顯はす是れ則ち其諸子によりて義とせ
らるゝころの智慧にして余は汝が此神の畏と智慧にありて其守
護を受け以て神の榮光を顯さんことを望む蓋し神は親ら其人民を

教へ而して其旗を建て、万民をして之に靡き従はしめんとて來り
 給へり
 使徒の時代より以來人にはキリストの光より迷へり此光はキリス
 トイエスの前にありて神の榮光の智識の光を彼等に與ふべきもの
 なり又凡ての眞理に導くことろの聖靈より迷へり故に人々は數多
 の教導者を立てて是より其智識を授かれり又イエス、キリストが先
 導となりて之を成全し給ふ聖き貴き信仰より迷へり此信仰は人の
 心を清くし神より絶らせんとするところの者に勝たしむ此信仰に
 よりて人に付神に近き之によりて神を喜ばしむ此信仰の奧妙は只
 純粹なる良心の中に存す又使徒の時代に傳へられたる福音即ち神
 の力なりより迷へり此福音は男女に於る生命と永生とを光に携へ
 之によりて人々は已を暗まらざる惡魔の形狀を看破ることを得此
 福音は之を受くる者を凡て生命と永生の中に保護すべし人々の眼

は人の後に注ぎ主の後に注がす主は其律法を光生命及び恩寵の新
 約の諸子の心中に記し給ひ之によりて人々は賤者より貴者に至る
 まで凡て主を知ることを得るが故に主を知るの智識は水の海を覆
 へる如く地球を覆ふに至らん主の此工は使徒の時代に於るが如く
 又人々聖主より再び膏を沃れて一切の事を知るの始にして已に
 之を受くるときは其教の外には人の教を要せず只義の信仰の語る
 ところ近く心と口に在る言に循ひて之を行ふべし此信仰の言は使
 徒等嘗て之を宣べ傳へ今猶之を受けて再び宣べ傳ふべきものにて
 之を受くるは即ち眞のキリスト信者たる者の職分なり今や人々は
 キリストと其靈より迷ひし其迷より出で一人より信仰を受けずし
 てキリストより信仰を受け福音を彼に受け又道なる彼より其膏を
 受け而して彼が嘗て其弟子に命じ又今にも彼に従ふ者に命じ給へ
 る如く價なしに彼を宣べ傳へんことを蓋し主なる神及び其子イエス

キリストは其人民を教へて之を世の凡ての道より出して途なり眞
 なり生命なる即ち父に至るの途なるキリストに導き凡て世の教師
 教説者より眞の教師説教者なる(希伯來書一、二)彼に導き又凡て世の
 禮拜を捨て、靈と眞にて神を拜せしめんさて(悪魔等は之を爲す能
 はす)降り給へり此禮拜は一千六百年前キリストがエルサレムの宮
 殿に於けるユダヤ人の禮拜及びヤコブの井の残れる山上に於ける
 禮拜を廢して更に設け給ひしものなり又使徒の時代以來人々が設
 けたる世の宗教を捨て、キリスト及び使徒等が創めたる神の前に
 深かにして世の汚穢より護るどころの宗教に導き又使徒の時代以
 來人々が設けたる凡て世の教會及び交際を捨て、吾儕の主イエス
 キリストの父なる神に在る教會に導き(撒前一、二)又人々が罪を犯せ
 るによりて男女の心に生じたる罪を收環を平らげんか爲に肉體の
 行爲を滅し其心に割禮とバプテズマを施し給へる聖靈との交際に

導かんぞ降り給へり聖靈に於る交際は聖き者即ち君の君王の王主の
 主の平和の繋なり而して此天の平和は眞のキリスト信者たる者の
 肉の武器にあらずして靈の武器を以て保護すべきものなり
 友よ神の聖き人々は聖靈に感づて聖書を説けり故にキリスト教國
 の人々は聖書を賜ひし同一の聖靈の導を受けたれば其國は毀たれ
 て礫堆さならん彼等若し凡ての眞理に達し神とキリストより其慰
 を得んと欲せば此聖靈を受け其導を蒙らざるべからず何人も聖靈
 によらざればイエスを主と叫ぶこと能はず聖靈によらずしてイエ
 スを主と呼ぶ者は其名を汚すなり之に反して眞と義とに於て尊敬
 を以て彼の名を呼ぶものは罪惡より免がるゝことを得べし故に汝
 如何にして日を送り如何なることを避くべきかを教ふるどころ
 の教師なるイエス、キリストより來る恩寵と眞理と心に感すべし然
 らば之によりて汝の心建てられ汝の言訓和せられ汝の救來らん斯

くして汝はキリストを受け彼は常に汝の教師たらん而して凡て彼を受くる者には彼は只罪と悪とに勝の權を與へ給ふのみならず又神の子たらしむ已に神の子たらば則ち生命及び永遠終なき王國の後嗣にして其涯なき富と財と受け嗣ぐべし右は主イエス、キリストに在る愛を以て之を認むイエス、キリストは万民の爲に死し人と神との間に在りし蛇の頭を挫き給ひたれば之に由て人は再び神に近きイエス、キリストなるアーメンに由りて神を讃むキリストは即ち天の靈なる岩及び基礎にして神の人民か其上に建つべきものなり讚美と榮光は凡ての上にある神に歸して永遠彼を頌むべし

アムステルダムに於て

一千六百七十七年六月七日

ジョージ・フォックス

追伸此狀携帶者は余の義女にしてゲルトロードテリツキ、ニールン及びジョージ・ケースの妻と共に汝に謁見せんことを望む者なり

前書に對するエリサベス内親王の返翰

親しき友よ余は常に主イエス、キリストを信するのみならず彼の爲には如何なる困難をも避けずして彼を愛する者に對しては溫和なる愛情を盡さんとする者なり故に汝の書翰并に汝の友の訪問は共に余の甚だ喜ぶところなり余は神が光と憐れを與へ賜ふ限りは彼等及び汝の忠告に循ふべし余は猶汝の愛する友たらんことを望む

ヘルトフォルドにて

一千六百七十七年八月卅日

エリサベス

カルデンホルフに到りしに其市街は皆焼失して流石に大なる市も其跡を留めずして實に憫れなる形状なりき余等は旅宿に赴き其日は週の第一日なりしにも原はらず兵卒等は或は酒を飲み或は雙陸盤を弄び焼け残りたる二三の家は其店を開いて平日の如く商賣を營み居れり余は感動を受けて人々に眞理を宣べ且つ神の審判の來るべき

ことを彼等に知らしめしに一人も余に對して無禮を加へんことを
なく皆靜かに之を聽けり然れども余は猶彼等の惡を見て心中重荷を
負へり故に朝夕晝夜の差別なく或は旅宿に於て或は道すがら路傍に
於て人々に語り彼等に眞理を宣べ彼等に主の目を知らしめ以て彼等
の心に在る光及び神の靈に導き之によりて惡を免かれんことを勧め
たり

余等はエムデンにて船に乗りテルフチールに赴き一の旅宿に投ぜし
に一人の會友余等の許に來れり此會友は元エムデンの人なごれも屢
追放せられて當時デルフチールに住居せり彼は金匠にしてエムデン
に於ては家屋も店舖も所有するを以て追放せらるゝも獨其家に立歸
れり是に於て人民は彼を獄に投て只麵麴と水とを與へ遂に其財産を
奪ひ彼及び其妻子をも共に追放して再び立歸るも住むべき所なく又
食すべき物を殘さざりき余等は主に在りて彼を慰め且つ勵まし而し

て彼は忠實にして彼に任かされざる証を確く立てんことを勧めたり
余等は主カホーランドにて命ト給ひし職を終りしを以て會友に別れ
イングラントに至る便船を得んが爲に小船にてブリエルに赴けりロ
ツテルダムより數名の會友又アムステルダムよりも二三名余等と同
道せり余は一ヶ月乃至五週間ロンドンに滞在せしが其間或は集會を
見舞ひ或は會友を勵まして困難に陥りたる各地の兄弟を救はんこと
を勧めたり其後地方を巡廻し會友を見舞ひ又團集會を開きて三月八
日に至りて再びロンドンに歸れり

ロンドンに歸り後凡ろ二週間にして年會開かれしが會友各地方よ
り集り來りて榮光ある天の集會なりき實に榮光威嚴慈愛生命智慧及
び一致は余等の中において權力凡てを總べ司れり而して主の人民の
間に分離をなさしめん計りたる不度の靈に反對して証を立てたる
もの多くありたれども余等の中には一人も口を開きて之を辯護する

者あらざりき余等は又他國の會友より愉快なる善き報知を得たり其
 概畧は載せて余が妻に送りたる書中にあり其寫は左の如し
 親しき者よ 余は凡ての物を總べ司る永遠の生命の種に在る愛を
 以て汝を愛す却説此處に屢集會を開きしが何れも未曾有の盛會に
 して主の權力は凡ての中に震動せり主は其權力によりて會友を結
 合し給ひ而して其實在は會友の間に顯はれ斯くて集會は靜穩平和
 に終りたり讀むべきかな主「ホーランド」よりの報知によれば彼地方
 事都合よし數名の會友はアムステルダムに開會する年會に出席せ
 んさて彼地に赴けり嘗て放逐されたるエムデンの會友は再び其市
 に歸ることを得たりダンジクに於て數名の會友獄に繋がる者あ
 り官吏等は之を一層嚴酷に取扱はんさ企てしが其翌日テール派
 の信者起りて天主教の寺院を打毀ちしを以て之が爲に取紛れて其
 企を果さざりき「ホーランド」の國王は余の書翰を得て自ら之を讀め

り而して其後會友等は「ハイダツチ」高蘭語にて之を印刷せり「アイル
 ランド」に開きたる半年會よりの書翰によれば彼地會友皆愛に在り
 さマレバドースの會友凡て靜温にして其集會も皆平和に整ひ居れ
 りアンデコア及び子ビスに於ても眞理盛に擴まり會友の集會も順
 序整ひ都合よし新「イングランド」及び其他の所に於ても眞理并に會
 友に關する事件凡て都合よく男子及び婦人の集會も能く整へり讀
 むべきかな主故に凡ての上に臨むところの神の力も種に在りて守
 れ去らば汝等之によりて生命を救を得べし其は主は榮光を以て凡
 て其國を轄め給へばなり榮光は今より常に彼の名にあれ「アイメン
 汝等及び凡ての會友余が愛を以て勿々」

ロンドンにて

一千六百七十八年三月廿六日 シヨージ、フオックス

余は猶數週間「ロンドン」の内外に留れり時に國會再び開けたるを以て

會友等は此機に乗じ議員に謀り當時各地の會友等の上に起りたる大なる迫害を除かんことを試みたり蓋し此迫害は國教に從はざる天主の教信徒に對して設けたる法律に從つて起りたるものにて實に無法なる處置なりき其は迫害者も雖も會友は全く天主教に反對にして口も筆もて反証し而して其下に苦しみたることを知ればなり上下議院の議員中會友に親切なる者數多ありて彼等は喜んで會友の難を救はんと思ひたれども繁忙なりしを以て力を盡すことを得ざりき依りて會友の迫害は依然として盛なりき然れども會友をして更に憂を増さしめたるものは嘗て余等と共に同一の眞理を宣言したる者の中にて福音の單純より去りて肉の自由に走り他の人々をも導きて神が其力によりて教會に建て給ひし順序と規律に反對し又教訓に對し大なる騷動を起し之によりて彼等は未だ心堅からずして眞理の道よりは廣き世の道を好むところの者を誘ひ

たるとなりき又心單純なりしも眞理に於ては未だ若く判斷に於ては弱き者はサタンの深き奸計を知らずして彼等の爲に欺かれたり是故に余は感動を受けて欺かれたる者の惑を解き弱き者の悟性を開かんが爲に左の書を作りて之を頒てり

凡て汝等區別をなさずして教訓を拒む者は神の力と靈によりて授け給ひし聖書も凡て之を拒み得べし其は教訓は舊約に於ても新約に於ても神と人に對して爲すべき事を示すにあらすや創世記に於てキリストの第一の約束より預言者の書に至るまで一として人の當に信すべきことにあるはなし則ち主は先祖により又其預言者によりて人々に示し給ひしにあらすや主は人々が假令彼等に神を喜ばしめ神と睦からしめんを其爲すべきことを宣べ且つ之を示したる預言者に背きたるにも係はらず猶其爲すべきことを示し給はざりしや其後キリストの時に於てキリストは人々に歩むべき

途を示し信すべき事を教へ給はざりしやキリストの後使徒等も亦人々に信仰に至るべき事并に福音と神の國を受くべき事を示し彼等を神の智識を興ふるころの者に導き又福音の日に於て新約の中に歩み以て聖なる都に至るべき途を示せしにあらすや使徒等は又忠實なる者を撰み(キリストの爲に其生命を危くせし者之に托して其教訓を諸教會に送り以て其教會の徳を建てしにあらすや故に汝等若し神の力と靈によりて與へられたる教訓を拒むべきば之を神の聖なる人々によりて與へしころの靈に逆ふものと知るべしキリストの軛なる十字架に居らざりし者は使徒時代にありて如何なる自由を求めて之に走り入りしや就て見るべし故に余等は粗暴にして高き同一の靈が今猶自由(キリストの力と靈)と與へ能はざるもの(を求めて喧々たるを見る彼は詐僞に反對すれども猶詐僞をなし良心の自由を主唱すれども猶良心の自由に反對し教訓に反對す

れども猶言語と文字とを以て教訓するが故に此靈の起り始め及び終は永遠の神の力と靈によりて測られ且判断せらるべし此靈は叫んで余等は良心を判くべからず余等は信仰の事を判くべからず又余等は靈其他宗教等を判くべからずと言へり然れども使徒等か持てる如く純粹なる靈と神の力を有せる者は判くことを得べし則ち良心に付ては其乾燥なるが將柔軟なるかを判き信仰に付ては其活けるものなるが將死せるものなるかを判き宗教に付ては虚飾なるか純潔なるが將汚濁なるかを判き靈に付ては神より來るや否やを判き且つ之を試み望に付ては偽善の望なるか將神の純潔なるか如く人を純潔にするころの望なるかを判き信心に付ては神より出て世に勝つものなるか將世の靈に走りて之に勝つこと能はざる者なるかを判き禮拜に付ては人心又蛇獸の禮拜なるか將靈と眞な以て拜する神の禮拜なるかを判き天の使に付ては墮落せしものな

るか將其住居を保つべきものなるかを判き教師使徒及び使者に付てはサタンに屬するものなるか或はキリストに屬するものなるかを判き靈を憂へしめ且つ之を熄し光を愛せず神の恩寵を虚くし聖靈に逆ふところの世を判き割禮を受け或は之を受けざる心さ其唇と耳を判き教會内外の物の相違を判くべし蓋し教會の小さき信徒と雖も人の貴賤に係はらず眞の權衡に従て斯の如き事を判くことを得べし此判は嘗て使徒等が受けたる同一の力と靈によりて行はるべし斯の如き者は又撰擇と廢棄を判き其住居を保つものと保ち得ざるか誰かユダヤ人にして誰かサタンの會堂に屬すべき者なるか誰かキリストの教へにあり誰か惡魔の教にある者なるか誰か神の力と靈の事を示して之を宣べ以て凡ての人を神の力と靈の内護り或は誰か弛るき靈の事を示して之を宣べ以てキリストの鞭神の力より離して自由ならしむるかを判くべし又誰か人々に光と

生命を與へて死と暗に勝たしめ且つ之を惡魔の得ること能はざる眞理に導くか或は誰か彼等を福音とイエス、キリストの榮ある自由キリストの信仰眞理、靈光及恩寵より出して死と暗に導くかを判くべし其は福音に在る自由の外には眞の自由あることなし福音にある自由は凡ての男女にある恩寵眞理、靈光、信仰及キリストの福音に適合す然とも是等に反對なるものには却て軛となるべしキリストは萬民を鞠く者なりと雖も彼は其教會の聖徒に審判を與へ玉へり聖徒は神の靈と力によりて言語、行爲及び眞理にありて子より父に至るまで成長する次第に於て鞠くべき力を持てり彼等は誰れに死の香なるか誰れに生の香なるか誰れか主イエス、キリストに事へキリストを宣べ傳へ而して自を宣べ傳へ自に專ふるか誰れか光につき信仰につき福音につき望につき恩寵について語り猶斯の如きものを宣べ傳ふるか人々の判く行爲も生活も凡て其言を食み又

神とキリストに背き而して神の力なるキリストの鞭と十字架の下に在るべき己れの自由より他人に捧げ盡くす故に聖徒は力とキリストの靈によりて神とキリストに事ふる者と彼に事へざる者とを辨へ而して汚れたる者と聖なる者とを監別することを得べし然れども其目薬を失ひて其眼暗みたる者はキリストの教會に於る斯の如き判断辨識及び區別をなすことを得ず故に皆キリスト、イエスの力と靈、生命の言と神の智慧に(下にあるもの、上)ありて天に屬する其了知と辨識を得以て夫の神を濟し偽の自由に誘き天の靈より離ざらしむるを審き之によりて神の子の像其福音神の力(悪魔の在らざりし前)及び眞理(悪魔之に居ること能はず)に循ひ皆一の精神一の心の靈魂を以て一の聖靈を飲み一の聖靈のマテスマを受け一の體となりてキリストを頭と仰き斯くして聖靈にありて親しみ平和の際にして平和の王の王たる聖靈の

賜ふところの一なるを守るべし云々

ルーステルに於て余は獄に行きキリストの證人となりて囚人となりたる會友を見舞ひ暫く彼等と共にありて彼等を勵まし主に在りて確乎として忠信を以て其證に堪へ忍び主の爲に受ることの苦は之を憂させざらんことを勧めたり而して彼等と別れ余は獄丁と語り彼は會友に深切にして彼等に時々其家族を見舞ふの自由を與へんことを望めり

此後余は殆んど二週間ヨルク州に在りて會友の間に奔走し主の職に従事して屢天に屬する集會を開けり夫よりランカシャ州チレットにてロバート、井ツデルスを訪問てエストモールランドのアルンサイドに到り主の福なる力にありて貴き活ける集會を開き諸方より集りたる會友を慰め之を満足せしめたり翌日余はスワルスモールに行きしに恰も集會日なりしを以て余は會友と共に好機會を得余等の心は神

の愛に在りて開き神の福なる生命は余等の間に流れたり
 余は此時一年以上北部にありて主の職の爲に會友の間に奔走し又大
 に力を著作の業に盡し或は反對者の著書に對して眞理辯護の爲に書
 籍を著はし或は眞理の教義を世に示さん爲に論文を作り以て世人を
 して正しく眞理を了知らしめ眞理の下に集らしめんことを勉めたり
 又會友の間にも屢書翰し論文を贈りて彼等を勵まし主の命を受けて
 彼等が證を立てんとする眞理の爲に勇敢且つ剛直ならんことを奨め
 たり
 翌日余は又一度眞理を受け其啓發を得たる者の中に謙遜を守ること
 能はざるよりして遂に再び眞理外に走れる者の爲に感動を起し左の
 書翰を作りて凡て謙遜に在るべきことを知らしめ且つ之を勧めたり
 余が愛する會友即ち神の其衿恤に頼りて旭の光上より臨み而して
 主の名を言ひ陳べ之に跪くことを教へ給ひしところの者よ謙りた

る心を以てキリストに學べキリストは汝等に謙遜を教へて之を守
 らしむべし故に若き者よ汝等決して汝等の啓發を得たるによりて
 高ぶり誇ることをなす以て無益なる思想に走りて汝等の地位を失
 ひ遂に失望に陥りて神の力を誤用する等のことをなす勿れ故に汝
 等は他人に教ふるところのものを曉り之に在りて謙遜を守るべし
 然らば眞理の神は彼の眞理光恵力靈及び其智慧にありて謙る者を
 彼の榮光に高め給ふべし故に何人も靈を熄し其運動を止め之を惱
 まし又之より迷ひ離ることなくして反りて其導を受くべし聖靈は
 必ず萬民を其天幕の中に守るべし神の聖靈は萬民にキリストに在
 りて其造物主たる聖なる潔き神を拜し彼に事へ彼を喜ばしむるこ
 とを了知らしめ且つ待つべきことゝ語るべきことゝを教へて以て
 人々の中に在る神の靈に答へしむ蓋し聖なる和合と交際は聖靈に
 あるなり

此年の末つ方余は再び南部地方に到るべき感動を主より蒙れり故に
 妻親族及び近傍の會友に別を告げ、後一千六百八十年一月上旬に南
 方に向つて出發せり余は此冬の多分はロンドンに在りて或は集會に
 或は集會外に大に主の爲に働けり當時は會友の困難甚しかりを以
 て余は靈に導かれて屢會友の集會を見舞ひ或は勸をなし或は例を示
 して彼等を奨励せり時に國會も開會中なるを以て會友等は其困難を
 議員に訴へて其助力を仰がんとて議員の間に奔走せり蓋し困難は次
 第に増加して各地より報知の來るもの殆んど毎日なり斯の如く余
 は會友の困難を救はん爲に大に力を盡せしが他の會友等も喜んで余
 と共に力を合せ數日の間日日國會を傍聴して貴族衆議兩院の議員中
 余等の正當なる訴を聴くべき人に事情を陳べんとて其機會を求めた
 り實に兩院の議員中には余等に深切にして力の及ぶ限りは喜んで余
 等を救はんと思ひし者ありしかど如何せん當時國會は天主教徒の隠

謀を發見し黨類探偵の爲に忙しくして彼等は余等を救ふことを得ざ
 りき而して余等の敵は其良心に於て余等が天主教黨にあらざること
 又是迄余等は嘗て隠謀を企てしことなきを知りしと雖も余等が誓約
 又戰爭をせざるを知られる故彼等は此好機會に乗じて天主教黨の爲に
 制定したる刑罰に照らして余等を處分せんことを企てたり

ロンドン市の法官撰擧に際し候補者等は余等會友の投票を求めたる
 を以て余は其候補者は如何なる靈を有し又眞の自由に對しては彼等
 は如何なる思想を有するかを發見せんが爲に數行の文を綴りて之を
 公にせり然れども候補者の如何に係はらず撰擧人等の精神大に憤激
 したるを見て余は左の一文を作りて之を撰擧人等の間に頒布せり
 ロンドン市の法官を撰擧せんとする人民に告ぐ
 人民よ汝等は地に屬し肉に屬し惡魔に屬するものの上にある神の
 溫和なる平和の智慧に在りて神の愛に居れ神の愛は誇らず恨まず

鄙陋ならずして万事に堪えて能く之を忍ぶ汝等此愛に在りて万民の幸福安寧を求めて何人をも害する勿れ妄りに激昂して輕躁なる愚動をなすことなく沈着にして温和を守り以てキリスト教主の溫和を万民に顯すべし其は万民の言語思想行爲を見て其工に循つて万民に報を興へ給ふ神は常に余等に近く在り給へばなり其は人の種まことの者は亦其稜るまことの物たらん

余は又眞のキリスト信者か當に思慮すべきこと其心を修練すべきこと喜び樂むべきこと并に勉強すべき事件等につき眞理の聖書より引證して短篇を著せり此等の事に於ては常に取締なき風俗の人々のみならず有名なる宗教家にも大に謬りて地に屬する物について考へ心の内に神の法律を喜び使徒パウロが爲せし如く神及び人より其眞心に非難を受けざる様其心を修練すべきものなり

迫害の熱度は引續て盛なりしを以て余はロンドンに於て最も力を盡

すべきを感ぜりロンドンにて開くまことの余等の集會は大抵妨害を受けざることなく屋内の集會は悉く官吏の爲に妨げられ會友は己むを得ず屋外に集會を催せり然れども時として屋内にて靜穩なる集會をなせしことありしは實に豫想の外なりき一日余は一二哩を距りたる處に病氣に罹りたる會友を見舞はんことを思い立ちしか國王は分離者に對する法律を實施せんが爲に市長を彼地に遣り之によりて町村吏等は集會所の戸を釘にて鎖さんとするを聞き市外に出づること

は之を見合せてグレンシヨス街の集會に赴けり妨害を加へんとするものありしに係はらず集會は盛にして至りて平穩に而して主の榮光は凡ての上に臨めり

此後遠からずしてエールス州デンビーに囚人となりたる二三の會友より書翰を得て彼地の會友等が善き真心の證の爲に大なる困難に陥りたることを承知せり故に柔和なる心に於て主の愛に導かれ左の書

を贈りて困難に在る彼等の心を慰め且つ其託せられたる證に立つて
確乎として動かざらんことを勧めたり

イエスの名と其命令の爲に苦める愛すべき羔に此書を贈る彼の眞
理の爲に勇敢に且つ忠信なれば汝等はキリストが汝等と共に
在り給ふを感すべし汝等の爲に苦しみ汝等を贖ひ汝等を飼ふこと
の彼を見よ彼は懼るゝ勿れ我已に世に勝りし云ひ彼は惡魔と其
工を滅し蛇の頭を挫き給へり余は汝等にキリストを見よと言ふ蓋
は彼は汝等が安息と平和を得る避難所なればなり汝等は皆に彼
を信すべきのみにあらず又彼の名の爲には苦を受くべきものなり
信心してキリスト、イエスに循ふものは彼に循はざる不信心なる奉
敬者より迫害を受くるは當然なり故に地上に於て神の眞理の爲に
勇敢く以て汝等を苦ましむるところの靈を見下し眼を擧げてキリス
トを見よキリストは該靈のあらざりし以前より在りて又其滅ぶる

時にも在り給ふ凡ての豫言者キリスト及び使徒等を鑑みよ彼等は
皆苦を受け迫害を蒙れり然れども彼等は眞實なる人たるに係はら
ず詐僞者として其迫害を蒙れりキリストは昨日も今日も變ること
なく代々汝等が建つべき岩石又基礎なり

役人の中に多くは集會所に罰金を科することを欲まざりしを以て
彼等は士官と兵卒を戸口に要路に置きて會友を屋内に入らしめたり
き然れども屋外にても説教祈禱をなせし故を以て會友は腰罰金を科
せられたることあり或る第一日デボン州ハウスの午後の集會に臨
まんと思ひ其午前の集會に會友は皆入ることを許されざりしと聞き
しを以て少しく早く行きて兵卒が未だ要路を守らざる前に庭に入れ
り然れども巡查は已に來りて棒を持ちて戸口に立ち居れり余は巡查
に内に入らんことを乞ひしに彼等は許すべからずとの命を受けたれ
ば残念ながら許すこと叶はずと云へり余は強ひて求めざるべしと云

ひて戶外に立ちしに彼等は甚だ丁寧なりき斯くして余は遂に疲れしが或人余の爲に椅子を携へ來りて余を之に倚らしめたり暫くありて主の力は會友の間に起りて一人の會友遂に口を開けり巡査は直に之を止めて語るべからずと制したれども彼は猶止めざりしを以て巡査は遂に憤怒せり然れども余は靜に手を二人の巡査に置き彼を妨げずして語らしめんことを望みしに巡査は之に殆ひ憤怒を止めて靜まり會友も又長くは語らざりき彼か終りし後暫くありて余は感動を受けて立ち上り左の如く語れり曰く余等は平和を守る人民なれば彼等は刀や杖を以て來るに及ばず余等は只國王役人及び地球上の庶民に對して其安寧幸福を祈るのみ余等は名を宗教に託して政府に叛逆を企て暴動を起さんとするものにあらず只靈と眞とに於て神を拜するものなり余等はキリストを以て余等の監督、祭司及び余等を伺ひ余等を管理する牧者となすキリストは余等の心に在りて之を治め給ふが故

に余等は靜かに坐して余等の教師を樂しむことを得べし云云斯の如く余は彼等を其監督牧者たるキリストに薦めたり而して余は之を終るや坐して祈禱をなせしに主の力は凡ての會友に臨み人民も巡査も兵卒も皆其帽子を脱げり斯くて集會終り會友皆散ぜんとするに當り巡査は其帽子を脱ぎて主に余等を悦しめ給はんことを望めり其は主の力は彼及び人民の上に臨みて彼等を制服せしめたればなり

次の第一日余はサポイの集會に赴けり集會已に始まり一人の使者入り來れり之に續いて亂暴なる者共海の如くに亂入せり然れども主の力は彼等を檢束して亂暴をなさしめざりき主の靈は凡ての中凡ての上に見て彼等皆靜まり余等は遂に榮光ある平和なる集會をなせり讀むべきかな主彼の恩寵は言語を以て陳べ難し是れ一千六百八十二年十二月の事なりき

一千六百八十三年余はキングストン、アブオントームスに行けり當時

追害の時なりしを以て集會に赴き余は一人の警部に會へり彼は集會
 所にありて番人を指揮して余等を内に入れしめざりし者なりき然れ
 ども彼は頗る丁寧にして番人も亦大道に二脚の椅子を出して會友に
 與へたりよりて會友は共に其處に集りて甚だ有益なる集會をなせり
 主は余等と共に在りて余等を慰め給ひ余等は平和に別れたり
 該地方の會友等を見舞ひ且つ之を奨勵したる後余はロンドンに歸り
 プル及びマウスの集會に赴き一に巡査は番人と共に守りて會友を入
 れしめざりき故に余等は街道にて集會を開き纏て一人の會友陳べ始
 めしや士官と番人等は大に騒ぎ彼を引き倒して之を拘留せり外に二
 三の會友語りし後余は左の如く演べたり曰く天は神の位にして地は
 彼の発なり汝等は余等が神の発に立ちて活ける神を拜し彼に事へん
 ざるを許さざる乎余の如く演ぶる間彼等は靜かなりき而して
 余が演べんさせしことを演べ終りしや余等は平和に集會を解散せり

余は年會の至るまでロンドンの内外に在りて會友の集會を見舞ひ福
 音の職に盡力せり年會は此年三月廿八日を以て開會す當時は追害甚
 だ盛なる時なれば余は教會の職の爲に各郡より來る會友等が捕はれ
 てロンドンの獄に繋がれんことを恐れて大に思を煩はせり然れども
 主は余等と共に在りて彼の力は余等を備れり主は余等に彼を待ち彼
 と共に慰を受け愛らしき福なる機會を與へ給へり故に我等は彼の眞
 理と彼の人民の爲になすべき職をなすを得たり追害甚だ盛にして各
 郡の會友或は獄に繋がれ或は財産を奪はれ杯して非常の困難に陥り
 たるを聞き余は其困難に陥りたる會友殊に商賣を營むものは困難の
 余り或は他人の財産物品を損害することなきかさて日夜大に心配せ
 り故に余は啓示を得て此點に付て會友に注意の書翰を認め之を年會
 の兄弟に贈りしに夫より其書翰は遂に國中の會友の頒布せり其書翰
 の寫左の如し

主イエスキリストに在る親愛なる會友及び兄弟よ當時の如き財産を奪ひ獄に繋ぎ迫害盛なる浪風荒き日に於て汝等が避難所は只イエスキリストなり眼を上げてキリストを見よ彼は天地に於て凡ての力を有ち給ふ故に神の人民其心果して主と共にあるか或は外物にあるかを試る爲に主より許さるゝにあらざれば何人も汝等の所有物は云ふも更なり頭の髪にだに手を觸るゝこと能はざるべし親愛なる會友よ汝等の供物は皆汝等が價を出して求めたる物を用ゐ且つ喜んで之を爲せ他人の物或は預り物或は寡婦孤獨の物を用ゐて供物となす勿れ斯の如き物は皆其處に存して手を觸るべからず汝等或は記憶するならん嘗て大なる迫害ありし時に商業或は他の業を營む會友にして寡婦孤獨其他の人々の物品を預り居たる者ありき迫害愈會友の上に来りて財産を奪はれ大なる困難に陥りたるに際し特別に注意したるは其困難に陥りたる會友の彼等が困難中

に主に供ふ物は必ず己の所有にして他人より預りたる物にあらざる價を拂て己に己の所有としたる物或は之に向つて辨償することを得べき物を以て供物となすことなり其後ロンドンの商店より貨物を受取りて未だ其代價を拂はざる各地の會友は數多の書翰をロンドンの集會に送りて彼等は貨物を送りたるロンドンの商店に其貨物を再び引取呉れんことを書翰を以て懇望せり或は或は又自らロンドンに赴き貨物を送りたる商店に到りて具さに其事情を語り己に其貨物に手を付けざるを得ざるの形状なりしも他人に迷惑を掛くるは彼等の本意にあらず又如何なる困難に陥りたる時雖も己の所有にあらざる物或は之に向て辨償すること能はざる物は之を主に供ふを好まざることを陳べたり之に依りて貨物を送りたるロンドンの商店は再び其貨物を無事に取戻せり此事は會友等が己の立てんとする證の爲に他人に迷惑を掛くることを好まず

則ちイエスの爲に證をなすには己の所有物を以て其困難を忍ばん
 さする正直眞實なる主義を明かにしたるものにて人々之を聞いて
 皆感心せり蓋し斯の如き會友の主義は皆其愛心に基くものなり云
 々
 年會後余は會友を見舞はんさてキングストン、アツポントームスに赴
 けり而して該地滞在在中一般會友に愛情を顯はし且つ彼等に純粹なる
 心を起さしめんが爲に左の書翰を作れり
 親愛なる會友兄弟よ汝等は暗より光に轉しサタンの力より神に轉
 じキリストにある生命なる光を信じ光の子供盡の子供となり第二
 のアダム天より來りたる主なるキリストに接がれたるものなり故
 に汝等はイエスの名の爲に集り之によりて其救を得べし蓋し天の
 下此名の外に救を得べきものなしキリスト、イエス言ひ給へり我名
 の爲に二三人の集る處には我も其中に在ばなりと(馬太傳一八、二〇)

故に汝等今イエスの名の爲に集まれば彼は汝等の中において救主
 中保者、預言者、牧者、監督者、教導者、顧問者、汝等の救の指磨官たり彼は
 蛇の頭を挫き惡靈と其工を滅す依りてキリスト、イエスに在る兄弟
 よ今日と稱する間に互に互に日々に勸をなせ否らざれば奸計多き罪の
 爲に或は頑硬に變する者あらんうは我儕もし始の信仰を終るまで
 堅く持たばキリストに與する者ならん(希伯來三、一四)故にキリス
 トの聲を聞け彼は汝等の中に在りて教師たり然れども録して「視よ
 われシオンに一の躡く石妨ぐる磐を据え之を信する者は恥ぢざる
 べし」とあり斯の如くキリストはユダヤ人或はキリスト教徒或は異
 邦人たるに係らず凡てキリストに在る生命なる光を信せざる者に
 は躡く石妨ぐる磐なりユダヤ人は聖書によりてキリストの世に降
 るべきを信ぜりキリスト教徒は聖書によりてキリストの已に降り
 たるを信すれどもキリストの命し給ふ如く光(キリスト)に在る生命

を信ぜずして遂に光の子とならず故に汝等光を信し光の子となり
たる者よ汝等の途なり生命なり救なるキリストに在りて行むべし
キングストンに於て

一千六百八十三年五月

ジョージ・フォックス

キングストンを去りし後余は猶啓示を受けて感動を起したれば左の
書翰を作りて之を會友の間に頒布せり

親愛なる會友よ余が汝等を受する愛は万物を支配し給ふ聖なる種
にあり余の望は汝等男子も女子も凡て永遠の生命の約束の嗣子キ
リストなる種か汝等の中に在ることを感じ之によりて汝等の長た
るキリストイエスに在りて成長し神か据ゑ給ひし岩及び基礎たる
彼に建てられんことなり蓋は此岩及び基礎は世に在る凡ての岩及
び基礎の上に確乎として立つものなればなり又余が望は汝等此靈
の岩よりして靈の水を飲み靈の食物を食ひ以て汝等の岩基礎及び

生命のパンと生命の水とは天より來り而して其パンと水は確な
るものなりと汝等眞實に内心より言ふことを得るに至ること又汝
等は汝等を飼ひ汝等を常に新鮮なる緑の牧草に導くところの彼の
聲を知ることなり是に於て汝等は天にある物を念ひ天より來る地
より來る物の上なる物を求むべし天に在りてはキリスト神の右に
坐して汝等の爲に懇求をなし汝等の中保者となりて神と汝等の間
に和睦をなし天の監督となりて汝等を監督し彼の光生命及び力の
中に守りて天の半天の牧場より迷ふこと無らしめ彼自ら牧者とな
りて其牧場に汝等を飼ふ彼は汝等の預言者となりて彼之が實休た
る約束と預言の應ずることを啓き以て汝等彼に居り彼又汝等の中
に在りて汝等の心を治め預言者の職祭司の職王の職を行ひ給ふ又
汝等に地に於て證をなす者は聖靈水及び血の三なることを知らし
む血はキリストの生命にして凡ての罪より潔め水は汝等を洗ひ汝

等を清め聖靈は汝等にバプテスマを施し割禮を興へ凡ての眞理に汝等を導く又凡て汝等をして一の靈を飲み天の平和の樂なる靈の一なるを守らしむ斯くて汝等は神の靈の導を受けたれば汝等は神の子女となり其靈によりて天に於て證をなす者は父道及び聖靈の三なることを知るべし此等は天に在る三の證にして萬物に付て證をなす蓋し彼は天地の神なればなり故に余は汝等が神の愛の汝等の心に流るゝを感す之によりて愛に世の不和なる愛の上にある愛を居り尤も善道を守らんことを望む其は愛はキリストの体を建てキリストの教會を建て、不和を退く愛は汝等を眞正の人となし眞正の神の性質に導く愛は汝等を互に丁寧に深切に且つ温和ならしめキリストの性質と眞正のキリスト教を汝等の言語と行爲によりて顯はさしむ云々

余は雅ロンドンに留り集會の内外に於て主の工と職に盡力し或はイ

エスの證の爲に獄に在る會友を見舞ひては彼等を勵まして主が彼等に託し給ひし證に忠實に堅固に立たんことを勧め或は疾病に罹り身体疲れたる者又は心に憂ある者を見舞ひては其疾病憂苦の爲に氣を落さざる様其精神を鼓舞したり余等の集會は時としては靜穩平安なることあり又時としては役人の爲に妨害を受け解散せられたることありき或る第一日余はサボイの集會に赴きしに數多の奉教者并に沈着なる人々も多く集りて盛なる集會なりき斯くて主は多くの貴重なる有益なる事を余に啓き給ひたれば余は之を人々に宣へ彼等を其主より受けたる神の靈に導き以て神の靈によりて興へられたる聖書を靈によりて了解り又神の靈によりて神と神が遣り給ひしキリストを知らしめ又其靈によりて彼等皆キリストに到りキリストは彼等の避難所にして彼は惡魔なる滅す者及び其工を滅し而して蛇の頭を挫く者なることを知らしめたり蓋しキリストは彼等の避難所にして又彼

等を滅す者より救ひしころの教主なればなりキリストは聖靈と火
 を以て彼等にバプテスマを施し彼の床を全く淨めて彼等の殻を消
 えざる火を以て燒盡し給へり彼等の殻は破戒によりて男女の間に
 來りたる罪と汚穢となりき然れどもキリストは實なる夢は之を穀倉
 に集め給ふ故にキリストのバプテスマを受けたる者即ち彼等の夢は
 神の倉にありて如何なる監賊と雖も假令外形の物品には手を觸るゝ
 ことを許さるゝとも神の倉にある夢には其手を觸るゝこと能はざる
 べし斯くて余は主の力によりて語り人々は之によりて大に感づつゝ
 ありしに巡查は暴民と共に突然湖の如くに入來り一人の巡查は余に
 降りて云ひて其手を余の上に置けり余は余等はキリスト教徒なり汝
 もキリスト教徒なりやと問ひしに彼は余の手を握り亂暴にも余を引
 き下ろさんせり然れども余は猶立ちて人々に數言を語り神の恩恵
 が彼等一同の上に来らんことを主に願へり巡查は猶余に降るべしと

叫び遂に余を引き下して棒を持ちたる一人の者に余を捕へて獄に送
 るべしと命ぜり此者は余を他の官吏の家に連れ行きしに此吏は甚だ
 丁寧なりき聽て猶四人の會友捕はれて此家に来りしが巡查は余等を
 一哩斗隔りたる法官の許に連れ行けり此法官は性急なる悪人にて先
 づ余の姓名を問ひ書記をして之を記入せしめし後巡查彼に余が集會
 に於て説教せしことを報ぜしや彼は忽ち怒りて汝は英國々教の禮拜
 式に反きたる集會に於て説教するは國法に悖れることを知らずやと
 言へり余は彼は必ず余に對して何人にか誓約をなさしむるならん
 と思ひたれば誓約をなすは余の主義にあらざるを以て余に對しては何
 人にも誓約をなさしむる勿れ余は之を欲まずと言へり是に於て法官
 は集會にて説教をなさしりしや余に問へり余は之に答へり神とキ
 リストが余の靈魂の爲になし給ひし事を言ひ顯はして神を讚美せり
 余は街道其他何れの處にありても神を讚めキリストイエスを言ひ顯

はすこは決して恥づる所にあらず又決して英國々教の禮拜式に背くことなしと言へり法官は猶英國々教の禮拜式に合はざる斯の如き集會は全く國法に悖る主張せいかば余は彼に向つて余等の集會に對しては斯の如き法律あるを知らず彼若し夫の隠謀を企て或は暴動を起さんが爲に開くころの集會に對して設けられたる條例を以て余等の集會に適用せんとせば是れ大なる誤なり余等は斯の如き暴動は之を惡み國王及び地球上凡ての人々に對しては眞の愛と好意を有つ者なりと云へり是に於て法官は自余の者は之を免して余をばニエーゲートに送るべければ彼處にありては余は或は説教することを得べしと云へり余は彼が神を讀めキリスト、イエスを言ひ巽はす爲に余をニエーゲードに送らんとするは彼の良心に合ふと叫べり然れども余は余の言は彼の良心に觸れたるを感ぜり彼は巡查に余を捕へ去るべしと命じ余を獄に入るべき令狀は食後に之を與ふべしと言へり余

は彼の平安と其家族の幸福を願ひ彼等が主の畏に在りて守られんことを望めり斯くて余は出發して道に進みしや巡查は明朝八時余に其家に來るべしとの或る會友等の傳言を余に通ぜり依りて余は其會友と共に行きしに其時巡查は余等に告げて日へり彼は法官が食事を終りしを窺ひ令狀を得んさて法官の許に到りに重れて夕刻來るべしと言ひしを以て再び夕刻に赴きしに法官は余を放免すべしと言へり

故に彼は余に向て汝は放免せらるべしと言へり斯くて國內の紛擾一方ならざるを見て余は會友に一書を作りて世の靈は困難の原なれば彼等之を退けて平安なる眞理に居らんことを勧めたり其書は即ち左の如し

親愛なる會友及び兄弟よ汝等は主がイエス、キリストによりて呼び
 撰び給ひし者なりイエス、キリストは汝等の生命汝等の救にして汝
 等は彼に在りて神と凡ての安息と平安を得べし主なる神は凡ての

上にある其大なる能力によりて今日に至るまで汝等を護り汝等を助けて彼自に對し一種聖なる人民さなし給へるを以て汝等は彼の永遠の靈さ力によりて世の外に護らるべし蓋は世には苦難多ければなりキリストは言ひ給へり汝等我にありては平安を得世にありては苦難を得べしと使徒亦言へり信する者は其安息即ち世に勝ち給へるキリストに入るなりと故にキリストに在りて守り且つ歩めキリストは汝等の安息汝等の永遠の安息なり

親愛なる會友及び兄弟よ世には如何なる紛擾或は患難或は暴動或は喧嘩或は争闘起るも汝等は凡て斯の如きもの、外に在りて之に關係すること勿れ然れども自ら守りて斯の如きもの、上にある主の力と平安なる眞理に居れ其力に在りて汝等万民の平安と幸福を求むべし神がキリスト、イエスに由りて汝等の心に瀝き給ひ愛に居れ其愛に在りては何物も神とキリストより汝等を絶つこと能

はざるべし

親愛なる會友兄弟よ葡萄樹なるキリストに居り神の榮の爲に果を結ぶべし汝等皆キリストを納れし故に彼惡に充ちたる世の人にあらすに在りて行み世の空しき風俗習慣の外に保護を受くべし蓋は世の風俗習慣は目の慾肉の慾及び高慢心を満足せしむるものにて此等の慾は父より來るものにあらずして皆過去るころの世より來るものなればなり又汝等は生命なるイエス、キリストによりて主なる神に事へ熱心に善行を慕ふところの一種の人民となり神の讚さなり榮さなるべき一種の人民となり汝等の言語は彼の惠の言語によりて恵に富み汝等の言行によりて正義と聖潔と敬虔とを顯すものさなるべし斯くて大能の神は汝等に於て汝等によりて榮を受け給はん神は凡ての物の上に在りて世々讚美は彼に歸すべしアーメン

年會已に終り地方より來りし會友も大抵ロンドンを去りしを以て余も亦暑中群衆の間にありて絶えず盡力し身体大に疲勞したれば少しく市外に出て地方に二三週を費して其間屢會友と集會をなせりロンドンに歸り暫く滞在して或は集會を見舞ひ或は眞理の爲に會友の間に働けり然れども新鮮なる空氣を得ざるが爲め健康大に衰へたるを以て余はロンドンより少く隔りたるエプペンゲフホーレストと云へる處にあるチャールズ・パスナルストの別荘に赴けり

夫より再びロンドンに歸りしも余の身体は市中の悶熱に永く堪ふるこそ能はざれば永く市中に滞まらざりき

其後余はエンフールドに到り該地方には會友等の別荘ありて互に接近せるを以て余は其間に往來し或は會友を見舞ひ或は彼等に見舞はれ又屢彼等と集會せり此時余は眞理に關し殊に審判の事に就して意見を著せり眞理を離れたる者は眞理の審判を恐れて大に審判に反對

を勉めたるを以て余は書を作りてキリストの教會はキリスト教徒と宣告したる者に對しては管に此世に屬する外物に關するのみならず宗教上の事に關しても審判するの資格及能力を有することを眞理の聖書によりて証明せり

余は一千六百八十六年一月にロンドンに歸り會友の困難救助の爲に全力を盡せしが今や稍其目的を達するの望を得たり當期の裁判は二月ヒツクススホールに於て開庭せり數多の會友其審判を受けんと訴へ出たるを以て余は日々に其會友等に忠告し機會を過らざらんことを勧めしが彼等は大抵其目的を達せり其後又國王は余等が困難の事情を具狀したるを以て遂に良心の爲に獄に繋がりたる囚人は皆放免すべき命令を下せり是に於て獄の門は開かれて數百の會友一時に放免せられたり中には數年間繋かれたる者もありしが今自由の身となりて此年三月開かれたる年會に臨みし者もありき依りて會友等は

欠しく束縛せられたる忠實なる齒友が主の役に就きて再び自由を得
 たるを見て大に喜べり斯の如くして余等は實に有益なる集會を得主
 の實在は豊かに余等の間に顯はれて余等大に慰を受けたり
 數百の會友は放免せられて獄を出でしと雖も十分一税其他の故を以
 て囚人となりたる者は依然として獄に繋かれ種々の困難は猶各地に
 盛なりき然れども死にも角にも數多の會友放免せられたるを見て是
 れ主の救なれば何人も人に重きを置かずして主に感謝すべきことを
 勧めんと思ひ左の書翰を作りて之を會友に頒てり
 會友よ主は其永遠の力によりて國王の心を啓きて獄の門を開かせ
 一千五六百の會友を放免させ又告訴の道を止めさせ給ひたれば諸
 處に於る余等の集會は頗る靜穩となれり故に余の望むところは自
 山も困難も共に主の民の爲に聖められ會友は何事に於ても主の恩
 寵を讃めて彼に感謝するにあり彼は荒れたる海を鎮め風雨を和ら

げて之を靜かになし給ふ之によりて汝等は主に依頼めば彼は汝等
 を願ひ給へば汝等其優慮するところを彼に託ねべし汝等が獄に在
 りし時にも主は其永遠の腕さ力によりて汝等を護り獄を汝等の爲
 に聖め給へり(或は彼は獄を避難所となし給へり)則ち彼は或は獄に
 繋き或は財産を奪はしめて困難の窟に於るが如く其人民を試煉み
 給へり然れども凡て斯の如き試煉に在る間も主は其人民と共に在
 りて地及び總べて地に滿つる物は皆主に屬し主は何れの處にも在
 し給ひ又其恩恵を以て年の究辨したまふこと(詩六五、一一)を教へ
 給へり故に凡て神の人民は心を盡して勉めて神の陣營を聖く清潔
 にし以て生命と救の榮光ある平和の福音にありて神とキリストに
 事へ又互に相事ふべし福音の榮光は神の陣營の上に輝ぎ彼の大な
 る預言者監督者及び牧者は其中にありて天に屬する職をなし給ふ
 故に彼の民たる汝等はキリストイエスにありて喜ぶべし汝等をし

て神と和らげ給ふ者は即ちキリストイエスなり蓋は悪魔と其工を滅し蛇の頭を挫くところの彼は凡て神の人民の建つべき磐にして基礎なればなり彼は過ぎし古昔にありて聖なる預言者と使徒等の磐なりしが今は余等の時代の磐なり神の磐基礎は動くことなく主なる神は其人民を之に建て給ふアーメン

ロンドンにて

一千六百八十六年七月廿五日

シヨージ、フォックス

右の外會友と眞理に關して此年種々の書翰と祈禱を書せしが其中眞理には分離あらざれば之に在りて一ならんを會友に勧めし書翰は左の如し

主イエス、キリストにある親愛なる會友兄弟よ汝等が平安と生命を得るは彼に由る彼に在りては分争なく破裂なく争闘なく又分離なし其はキリストは分つべきものにあらず又眞理に於ても光恩恵

信仰及び聖靈に於ても分離なく只一致和合と交際あるのみ第一に眞理を去り之より離れたるものは悪魔にして悪魔は男女を試みて神が禁を給ひしことを爲さしめて神に反かせ眞理を出で、偽の自由に迷はしめたり故に男女を偽の自由即ち世の神に誘ふものは蛇なれば男女は眞理によりて之より離れざるべからず然らば眞理なるキリストは彼等を自由にし彼等は實に自由となる是に於て彼等はキリストが自由になさしめ給ひし其自由に立て確乎として動かざるべし汝等が知る如く多數の人は忍耐の言并に清潔、平和寛容及び柔順なる智慧の言を忘却し彼等は地下の智慧即ち地に屬するもの情慾に屬するもの悪魔に屬するものに走れり彼等は凡ての事を忍び凡ての事に堪え人の悪念はす非禮を行はざる神の愛より出でたり是に於て彼等は忍ぶこと能はず脆くなれり輕々しく怒り非禮を行ひ誇り驕傲り、兇暴苛酷、性急となりて恰も鳴銅や響鈸の如

し然れども是れ皆夫の深切にして凡ての事に堪へ凡ての事を忍ぶ
 どころの神の愛の性質に反くものなり故に親愛なる會友兄弟よ
 彼等凡て神の愛に居れ愛に居るものは神に居り神又彼等に居り給
 ふ清潔平和寛容なる智慧の言を守り又凡ての事に堪へ凡ての事を
 忍ぶ忍耐の言を守るべし忍耐の言は惡魔も世も又惡魔の機軸も之
 を消耗するこゝ能はず然れども忍耐の言は却て彼等を消耗す其は
 其言は彼等か存らざりし前より在りて彼等が亡びたる後にも猶在
 るべければなり其言は神の潔き聖なる言にして神の子等は皆之
 によりて再び生れて其乳を飲み之によりて生活し之によりて成長
 す故に余は汝等が凡てキリストイエスに在りて一の心一の意一の
 魂一の靈にあらんことを願ふアーメン

此年の末つ方余はキングストンの會友を見舞はんとて該地に赴きキ
 シヨージ、フオックス

キングストン近傍なる余の子ラウスの家に暫く滞れり其後ロンドンに
 歸り一ヶ月斗滞在し日々或は集會に臨み或はキリストの教會に關す
 る職務をなし或は病氣其他苦難に陥りたる會友を見舞ひ或は眞理擴
 張の爲め又は誤謬の説を辨駁の爲に著作をなして主の職に働けり
 ロンドンに一ヶ月斗滞留せし後余は再び市外に出でたり是れ余は眞
 理の爲に入獄其他種々の困難を受けたるが故に身体大に衰弱し市中
 の閑熱に堪え難きを以て暫く市外に出で、新鮮なる空氣を得んと思
 ひたればなり此時余は婿なる井リアム、ミードの許に行きエッセキス
 にあるゲーセスと稱する彼の別荘に二週間斗滞留せり(ロンドンを距
 る十三哩)

三月の初め余はロンドンに歸りて年會終るまで留れり其年會は同月
 十六日に開會せしが各地共益に放免を受けたるによりて夥多の會友
 來會せしを以て甚だ盛大なる集會なりき年會終るや余は甚だ疲勞し

たるを以て其後一週間斗にしてエドマントンより少し距りたる會友の家に
 行き該處并にサウス街に少く滞留し該處を始め井ンチモ
 ールヒル及びベリ―街等に於て會友と集會を開けり當時余は神の事
 に只管考慮を費せしに神は人間が彼の戒を破り彼に叛きし後も猶彼
 等を顧み種々の方法を設けて再び彼に歸らしめんとなし給ふ其涯な
 き恩恵と憐憫を非常に感得たれば眞理の靈の啓示を受けて其題に就
 て左の文を作れり

凡ての男と女を創り給ひし神は假令彼等が神の教戒法律を犯して
 彼に叛き彼の光を惡み彼の靈を惱まし恩恵を施す彼の靈を侮るも
 雖も恩恵深き神は猶万民の救を受け眞理を曉るに至るを望み給ふ
 凡て眞理を知らんとする者は己れの内部に於て之を知らざるべか
 らず余は更に言はんイエスによりて來る恩恵も眞理も之を求め知
 らんとする者は唯能く己れの心と内部に於て爲し得べし斯の如き

人は心の内の隠れたる人眞珠、麴酵失ひたる銀貨及び天國を其心の
 中に見出すべし其は光と眞理を其心の内に會得せざる間は彼等は
 墮落のアダムニ於て神の像其光及び權及び國より離れたるもの
 なればなり

然れども蛇の頭を碎き惡魔と其工を滅し給ひキリストは人の心眼
 及び耳を開き給ふ彼は万民の救主、贖主にして彼及び彼の眞理に
 循ふところの人民には永遠の生命を與へ給ふ讚美は世々キリスト
 に由りて主に歸すべしキリストは万民をアダムの死より救はんこ
 て万民に代りて死の苦を受け偏く世の罪の挽回の祭物となり時至
 らば證せられんがため万民に代り己を棄て、贖となせり蓋しアダ
 ムの罪と逆により死と審判の万民に來りし如くキリストが死に至
 るまで從順なりしによりて義とせられ生命を獲ることも万民に來
 れりキリストを信するものは永遠の生命を獲れども信ぜざる者は

已そのつみに其罪定さだまれり然れども神は万人の救を受け彼等の救主なるイエスに在る眞理を曉るに至ることを望み給ふイエスに在りては審判あることなし

シヨージ、フオツクス

集會と集會の間には余は眞理を弘め人民の智慧を啓きて眞理を受けしめんが爲に數多の文書を作れり其中一は聖書より引證して人々は福音聖靈及び神の國を受け或はマブアズマを受くる前に悔い改めざるべからざることを書せり
他の一書には神の民は神に似ざるべからざることを書せり則ち左の如し

神は義しければ其人民も義しくして義しく行はんことを望み給ふ神は聖なれば其人民も聖にして聖く行はんことを望み給ふ神は正しければ其人民も正しくして凡て人に正しく行はんことを望み給

ふ神は光なれば其諸子も彼の光に歩まざるべからず神は永遠涯なき靈なれば其諸子も靈に歩まざるべからず神は憐愍にみち給へば其人民も憐愍に満たんことを望み給ふ神の太陽は善人悪人を照らし彼は雨を善人悪人の上に降らしめ給ふ故に彼の人民も凡ての人に善を爲すべし神は愛なり愛に居るものは神に居る愛は隣を害はす是故に愛は律法を完全す(羅十三、一)○徒使日へりられ己の如く爾の際を愛すべしと曰る此一言すべての律法を全うする也(加五、十)四(父)の我を愛し給ふ如く我汝等を愛す汝等我愛に居れ(約十五、九)是れ神の人民たるもの、當さに爲すべき事なり

ジーセスに於て

一千六百八十七年六月

シヨージ、フオツクス

神の人民たる者は當に斯の如くなるべきことば之を承認し且つ之を宣言する者多しと雖も此の形狀に達すべき方法に至りては之を知る

者甚だ妙し故に余は眞理の靈の啓示によりて更に短文を作りキリストに到りて神の如くなるべき正しき途を其方法を人々に示せり
 キリスト言給へり我は途なり眞なり生命なり人も我に由らざれば父の所に往き能はず(約十四、六)又曰く我を遣はし、父もし引かざれば人よく我に就くなし(約六、四四)と神は如何なる方法を以て人を其子に引き給ふや則ち其聖靈を凡ての肉(凡ての男女)に瀦ぎて引き給ふ此聖靈によりて聖き義なき神は人々を其不義不潔より義なき聖き者なるキリストに引き給ふキリストは新約に在りては大なる預言者舊約に在りてはモーセが我の如き一箇の預言者を興し給はん汝等万事之に聽くべし之に聽かざる者は絶るべしと言ひし者なり大なる預言者たる神の子に聽かざる者は父が聖靈によりて其子に引き給ふことを思はず然れども父の善き靈が其子に引き給ふを念ふ者には聖靈之に神及び永遠の生命なるイエス、キリストを知

るべき智慧を興へ給ふ是に於て彼等はイエス、キリストは途なり眞なり生命なることを知り又彼等を其牧草と生命の泉に於て飼ふところの牧者なる子イエス、キリストに由らざれば神に就くこと能はざるを知るべし彼等は又キリストは彼等の靈の監督なれば彼等神より迷ふことなく生命の牧場より出づることなきを知らん彼等はキリストは彼等の中保者にして彼等を神と和睦げ給ふを知らん彼等はキリストは天よりも高き祭司の長にして彼等の罪の爲に死し彼等が義させられん爲に甦り彼によりて神に就く者は全く之を救ひ得給ふことを知らん

グーセスに於て

一千六百八十七年六月

ジョージ・フォックス

余は此處を去る前に更に一書を作り以て神の國は多くの人々之を遠方にあるものより全く來世に屬するものと思へども幾分か今世に於

て之を知り又之に入ることを得べきこと然れども再び更生りたる者
にあらざれば其門を知ることを能はざること聖書より多くの例を引
きて之を示せり此書の結尾は左の如し

ヨハ子曰く夫れすべての人を照す眞の光は世に來れり(約一、九)彼を
受けし者には權を賜ひて之を神の子と爲せり(十二)斯る人は血脈に
由るに非ず情慾に由るに非ず人の意に由るに非ず唯神に由りて生
れし也(十三)然らば人の神の子となること能はざるはキリストを接
けざるに由るキリストの約束預言表象及び虚影を受けたるユダヤ
人なる大なる奉教者は彼已に世に來りし時に之を接ざりき今日キ
リエトの僧侶及び奉教者等の中にも亦キリストの光を接けず之を
信ぜず反りて其光を惡て之を天然の良心と稱して戲謔るものあり
キリスト、イエスを接けず其光を(彼に在る生命)惡みなら只言語に
於て彼を信す云ふ者は光の子并に光に在る眞の交際を知らず又

聖靈によれる義平和及び喜に立つところの神の國を知ること能は
ず彼等は既に光によりて其罪を定めらる然れども光に歩むところ
の光の子は天のエルサレム活ける神の城千万の天使の仲間天に録
されたる長子どもの大會に到りてハレルヤの歌を歌ふことを得べ
し

キングストンに在りし時も多くの書を作りしが其の中の一書は左の如
し

ろれ神は其生みたまへる獨子を賜ふ不ぞに世の人を愛し給へり此
は凡て彼を信する者に亡ふること無く(七)亡ること無に注意すべし(し
て永生を受けしめんが爲めなり(約三、十六)又曰く子を信する者は窮
なき生命を得得に注意すべし(三十六)故に信する者は猶世に在る間
に窮なき生命を得べし彼を信する者は罪に定められず信せざる者
は既に其罪定まりて神の怒其上に留らん彼の言をき、彼を遣し、

者を信する者は永生を有ち且つ審判に至らず死(第一のアダムの死)より生(第二のアダムの死)の生に遷れり(約五、二十四)キリストが予へ給ふ糧は約翰六章二十七節にあるが如く永生に至る糧なり又キリストが予へ給ふ水は之を飲む者には泉となり湧き出で、永生に至るべし(約四、十四)キリストエダヤ人に言ひ給へり汝等聖書に永生ありと意ひて之を探索すこの聖書は我について證する者なり汝等我所に生を得んが爲め來るを欲せず(約五、三十九、四十)之によりて汝等は永生を得るは生命なる彼について證する聖書にあらずしてキリストにあることを知るべし彼の聲を聞き彼を知りて循ふところの彼の羊には彼は永生を予へ給ふ彼等は亡ぶることなく又何人も彼の手より之を奪はざるべし故に余は神の民は万事を忍びてキリストイエスに在る此救を永遠の榮を以て得んことを望む其はキリストは既に完全ければ凡て彼に順ふ者の永救の原となり給へ

ばなり

余は殆んど三ヶ月保養の爲に地方に在りて一千六百八十八年七月ロンドンに歸れり當時余の健康は非常に衰へ集會に臨むも終りまで堪へること困難にして會後は屢床に臥する程なり然れども身軀の衰弱は余をして主の職を免かれしめず余は猶集會の内外に於て主が機會と能力を興へ給ふに循つて主の職に従事せり
ロンドンに歸りしや問もなく大なる重負余の上に来り主は纏て來らんとする大なる騷亂困難改革變動の前徴を示し給へり依りて余は主の靈の感動を受けて短文を作り之を一般會友に贈りて來らんとする暴風を知らしめ主に依りて安全を得んことを勧めたり此時に當りて大なる試練と重負余の上に来り政府の大變革前には必ず來る余の力は去りて市街を歩行するにも倒れんとする程なり依りて暫く外出すること能はざりしが遂に主の力の凡ての上に興りたるを感ト且つ

彼は其忠實なる人民を凡ての困難より確に護り給ふことを感ぜり
 余は簡單なる文を作りて彼等が爲せしところの害と人々を其心に存
 するキリストの顯現より迷はしむる危難を示せり
 ユダヤ人は神の律法によりて外形の地界を侵すことを禁ぜられた
 リ(申十九、十四)之を侵したる者又盲者をして路に迷はしむる者は舊
 約に於て誣はれたり(申廿七、十七)新約に於ては使徒曰く我嘗て傳
 へし所に逆ふ福音を爾曹に傳ふる者は誣はるべし(加一、八)又彼は
 彼が傳へし所の福音は凡て信する者を救はんこの神の大能なりと
 言へり(羅一、十六)アブラハムに傳へられたる福音は彼の裔に由りて
 諸國の民及び天下の諸の宗族は福を獲んとなり人々を此福なる情
 態に導かんが爲に神は其靈を凡ての肉に瀉ぎキリストは凡ての人
 を照らし救を興ふる神の恩恵は万人に顯はれて眞にキリストを信
 ずる信者を教へ神は其律法を眞の信者の心に録し之を彼等の精神

に留めて小なる者より大なる者に至るまで皆主を知らしめ彼は其
 言を彼等の心に興へて彼等を循はしめ彼等の衷に膏を沃ぎ給ふ而
 して其膏はすべての事を教ふるが故に彼等は人より教を受くるに及
 ばす去れば人々を光靈恩言及び内なる膏より誘ひ出すところの者
 は則ち人々を踏なき世嗣の天の境界より離れしめ彼等を盲者とな
 し又盲者を天にある永遠の家に至る生命の道并に新しき天のエル
 サレムより迷はしむるものなり故に盲者を其路に迷はしめ彼等を
 天の境界より離れしむる者は神に誣はるべし

シヨージ、フォックス

地方に在りて少しく爽快を覺えたるを以てロンドンに歸り一千六百
 八十九年九月中旬に至るまで服役の事に従ひつゝ滞れり其間エッセ
 ツキスなる余の子ミードの家に到り冬の間其家に留り時々ミードの
 家族が屬する半哩斗距りたる集會に臨みし外は餘り出てざりき然れ

ども余は其家族と外より此處に來りたる會友とは屢集會を開きたり
此處に滞在の中も亦種々の文書を作りしが左に掲ぐるものは其一にし
てペンシルベハニヤ新エンングランドホルヂニヤメリーランドセル
ゼウスカロライナ及び其他の亞米利加の殖民地の四季會年會に贈り
しもの也

主イエス、キリストに在る親愛なる會友兄弟よ汝等は彼の光を信す
るによりて光の子供盡の子供となれり故に余は汝等が彼の光彼の
日に行み以て舊き麴醉を用ぬすまた惡毒と暴狼の麴醉を用ぬすし
て我儕の爲に幸られ給へる我儕の逾越即ちキリストの節を守り舊
き麴醉を除きて新き團塊となり眞實と至誠なる無麴醉を用ぬて我
儕の逾越即ちキリストの節を守らんことを望み又新しき生命によ
りて神に事へんことを望む蓋は凡ての人民に在る神の節に答ふる
ものは生命及び眞理に行はむとなればなり斯くて人々は汝等の善

行を見て天に在す汝等の父を崇むべし故に神の聖き眞理の爲に眼
くありて之を奉教者汚れたる者及びインヂヤン人の間に廣むべし
而して汝等は毎年一回汝等が眞理に熱心なること其擴張の景況
奉教者汚れたる者及びインヂヤン人等の之を接くるの景況及び汝
等の中にあるキリストの教會の動靜等について汝等の年會より當
地の年會に報知すべし

サーセスに於て

一千六百八十九年十一月廿八日
余は此地に留まりし間に又左の書を作りてイザヤが異邦人の爲に主
の立て給ふと預言せし旗は即ちキリストなることを示せり(其中に次
の如き文あり)
今や汝等は約束と預言がキリスト、イエスに於て應へるを見るなら
んキリスト、イエスは神のユダヤ人及び異邦人に與へ給ひし旗彼等

の救の君にして彼は凡ての人を照らし凡ての人は天に屬する神の
 光によりてキリストを見て之に依り頼むべしキリストは天より降
 りたる主彼等の君彼等の旗彼等の大將にして彼は蛇の頭を碎き惡
 魔と其工を滅ぼし給ふ者なりキリストの世に降り給ひし時にユダ
 ヤ人の中に多の黨派ありしが今又ユダヤ人のキリストの降るべき
 を信ぜし如く既に彼が降り給ふを聖書に據りて信するところの信
 者の中にも多くの宗派あり然れどもキリストの光に眼を閉ぢ耳を
 止むる者は彼等を照らし給ふキリストを以て彼等の旗彼等の救の君
 と爲すことを得ず天の旗救の君は天の眼を以て見天の耳を以て聞
 くべし然らば彼に循ひ彼の聖き陣營となり彼の天の兵卒ならば
 彼其心を改め之を堅して靈の武器と靈の鎧を與へ給ふべし彼は又
 白き潔き美なる布即ち彼の義を以て其兵卒に被せ永遠なる平安の
 福音即ち神の力を以て彼等が穿かせ給ふ而して其衣服と靴は時を

經とし決して古びることなし世の大將に盲者聾者の兵を募りて之
 に武器を與へ鎧を被する者なきが如くキリストの光に眼を閉ぢ耳
 を塞ぐところの盲者聾者にはキリストは其美なる布其天なる靈の
 鎧を以て之に被せ給はざるべし其は人の心に照り以て彼等の旗彼
 等の救の君にして多くの子を既に榮光に尊き且今尙導き給ふイエ
 スキリストに在りて神の榮光を知らしむるものは光なればなり讚
 美と尊貴と榮光は凡て主に歸すべし彼は永遠に活き給ふアーメン
 余はロンドンに歸り年會の終り後に至るまで留まれり此年會には
 主の恩恵顯はれ余等は彼の福なる實在を喜び彼の天の力を活潑に感
 ぜり是に於て余は地方に赴き集會を見舞ひしに主は余と共に在りて
 深奥貴重なる眞理と靈妙なる天の蘊奥を余に由りて人々に啓き給ひ
 たらば余は之によりて大なる慰と喜を得たり余は又ロンドンに歸り
 九月に至るまで留まり續いて神の教會に關したる職に従事せり當時

國會は誓約と隠密なる結婚に關する原案を議しつゝありしを以て多くの會友は彼等に不利ならざる様に決議せられんことを欲して國會に傍聴して其様子を窺へり余も又此事に關して彼等の目的を助け或は傍聴し或は議員に接して其利害を討論せり此時に當りて種々著作するところありしが左の書は傳道に従事する會友に與へし者なり

各所に在りて傳道に従事する凡ての會友よ汝等は神より傳道の賜を受け傳道の賜の爲に東奔西走すべき者なれば汝等の銀(マレント)を隠し汝等の光を升の下に置き又此世の事を以て己を煩はす勿れ然れども神の眞理の爲めに勇敢にして之をキスリトの日中の光に於て擴むべし汝等は神の國を其義を探めて之を接けたれば又之を宣べ傳ふべし神の國は聖靈に於る義と平和と喜に立つものなり靈の役者となるに足るものとなりたれば靈の爲に種々靈より永生を

獲りさるべし靈に於て進み潔き望ありて耕し同ト望に於て神の力と靈を以て敗壞の殻より麥を打ち出すべし故に余は彼等が主イエスキリストより託せられたる傳道を盡し以てイエスの血或は生命と證によりて内外より之に反對する敵に打ち勝んことを望む汝等眞理を宣べ傳へんとするものはイエスの如く愛によりて之を宣べ傳へよイエスを信じて彼を接くる者には彼其權を賜ひて之を神の子と爲し乃ちキリストと共に後嗣となりて兄弟と呼び給ふ彼は又彼等に生命の水を與へ給ふ此水は彼等の中にて泉となり川となり湧き出で永生に至り活る神の靈の植物を聞すべしキリストに在るさころの者は愛と平和と一致に在り彼等は彼に在て強く且つ其心を堅うす又彼等は始たり終たる彼に在りて神の永遠の尊貴と榮光を堅く信じて動くことなしアーメン

此後余は又一の書翰を作り殊に之を傳道の爲めに米國に渡航したる

會友に贈れり即ち左の如し

宣教者勸告者諭誡の爲めに米國及び其諸島に渡りたる親愛なる會友兄弟よ汝等に於る神の賜と純潔なる心を勵まして汝等の天才を發達し以て世の光となり隠るゝこなき山の上に立てられたる城となり汝等の光をインヂヤン人及び黒人白人の中に輝かし彼等に在る眞理を満足せしめ神が彼等の爲に立て給ひし旗なるキリストイエスに導くべし蓋し日出より日没に至るまで神の谷は異邦人の間に奪まれ何れの宮即ち聖められたる心に於て香を燒きて神の名に捧ぐべし會友よ怠る勿れ黒人の集會も汝等の家族の集會も怠ることなくして之を續けよインヂヤンの王及び其屬僚臣民其他の者も集會をなし彼等をバプテスマと割禮を施す靈に導き以て彼等に神を知らしめ神に事へ神を拜せしむべし汝等地に坐し世の事を念ひ之をのみ慕ひ求むることを戒しめ凡て眞實と至誠なる無酔

顔を用ゐて我儕の逾越なるキリストの節を守るべし然らば天より降りたる此無酔の生命の靈は凡ての心と魂を喜び樂ましめ神に事へ神を愛せしめ又平和の眞理に在りて相互に愛し相互に事へしめ而して平和の繫なる諸の主の主王の王神の靈の一なるを守らしむべし大能の神は此愛と平和の中に其民を護り此地に於て眞實のため彼等を強からしめ教と善良なる品行とによりて其眞實を振めしめ給ふべしアーメン

此後間もなく余はロンドンに歸り殆んど毎日會友等と集會を開けり斯くて二週間斗市中に留まりしにアイルランドに於ける會友等の苦難の報知は大に余の心を憂へしめたれば余は彼等を慰めんさて左の書翰を贈れり

主イエス、キリストに在る親愛なる會友兄弟よ主は其永遠の腕と力によりて汝等の苦難修行、試煉困難を通して汝等を護り給へり

余は主が凡ての苦難の中に汝等を助け又其智慧によりて凡の忠信なる者を護り給ふことを信じて疑はず主は其羔を抱きて眼球の如く柔かに扱ひ賜ふ彼の力は垣となりて天の植物を守り給はん故に彼の子たるものは凡て其心も靈も魂も主に託すべし主は忠實なる守衛にして睡ることなく疲ることなくして汝等を守り汝等を全く救ひ得給ふ之によりて主が汝等を試みん爲に許し給ふにあらざれば何人も髪の毛程も汝等を害すること能はざるべし天地の諸の權は主に與へられ彼を接しころの汝等には神の子女さなるべき力を賜ひ汝等は活ける頭なるキリストの活ける肢となりて彼に接かれ永生を得ることなれり種なるキリストの權は万物の上において之を轄め彼は蛇の頭を碎き惡魔と其工を滅し給ふ彼は惡魔が在らざりし前に既に在し給へり故に汝等は凡てキリスト、イエスによりて生命を得彼に在りて行むべし蓋は汝等と神との間にはキリスト

の外にある者なく汝等彼によりて救はれ生命と安息を得又神と和らぐことを得んかためなり
此地并に外國に於る眞理の模様を中さんにホーランド、ゼルマニー及び其近傍に於ては會友等皆愛と一致と平安に在るを聞くと又ジャマイカ、バルバドース、メビス、アンチグア、メリーランド及び新エングランド等に於ても會友等一致と平和に在りとの外別に聞くところなし主は彼等を苦難ある世より導きて平安と生命と愛と一致の源たるキリスト、イエスに在りて護り給ふアーメン主イエス、キリストに在る余の愛は上に掲げたる諸國の會友に於るが如く何處の會友にもあらんことを望む

ロンドンにて

一千六百九十年十一月十日
上掲る處によりて讀者は既に此聖なる神が人の其幼年より殆ん

ジョージ、フォックス

死に至るまでの生涯其間彼が經歷したる旅行勤勞苦難及び種々の修行を試験の概略を知りしならん蓋し此記事は皆彼の自ら作りし日記より抄録したるものなり彼が臨終と葬式の年月場所及び其景況を此處に記して此書を結ばん

彼はアイルランドに在る會友に上記の書翰を送りし翌日グレイシーヨス街の集會に赴けり此集會の第一日なりければ甚だ盛會なりしか主はフラスクスをして充分に實効を以て眞理を宣べしめ給ひ彼は大なる力を以て多くの深重なる事を明瞭に啓き示せり其後祈禱を捧げ會を終りて彼はヘンリー、ゴルドリーの宅集會所の近傍ホワイトハルトコートに在る一會友の家なりに行けり二三の會友も共に行きしか彼は此會友等に向つて日へり余は集會を出づるや心臓に惡寒を感じり然れども集會に臨みしは甚だ満足なり余は職務を盡くしたり余は全く自由なりと斯くて會友等が彼と別れし

や彼は獨り床の上に横はりしが彼が集會後疲れたる時に常に爲す如く直に起き上り猶惡寒を感じるまで再び横はれり彼の元氣は著しく衰へ夫より床に就て安らかに臥し終りに至るまで感覺を失はざりき

彼の全き生涯中彼の靈は神の博愛にありて眞理と正義を高め之に至るの途を万国の國民に知らしめんと熱望せしが故に今其肉体衰弱したる時にも其精神は依然として其事に熱注せり彼は殊に二三の會友を招きて會友の書籍と其眞理を世界万国に傳へんことを望むと語れり多くの會友彼を病床に見舞ひしに彼は其中の者に向ひて万事善し神の種は万物を治め又死に勝ち給へり余は假令肉体に於て弱しと雖も神の力は凡ての上に在り神の種は凡て亂雜なる靈を支配す

斯の如く精神は天の中に在りて全く神に事へたりしが肉の力は次

第に衰退し其週の第三日午後九時と十時の間に彼は静かに此生命を離れ主にありて安らかに眠に就けり集會に在りて主の福なる真理と力を以て活潑に宣べしは是より僅かに二日前の事なりき斯の如く彼は忠實に證を立て愛と和合を以て兄弟と交り万人に對しては平和と厚情を顯はし遂に一千六百九十年十一月十三日を以て其日を終れり時に年六十七

同月十六日(週)の第六日にして葬式執行日(大勢の會友及び各種の人々は墓地に至るまで會葬せんとて正午グレンシヨス街に近づきホリイトハートコールトの集會所に集合せり集會は最嚴肅に二時間計開かれしが主の福なる實在と其榮光ある力は明かに顯はれ此親愛なる主の僕が盡くしたる福なる傳道即ち此福音の開けたる日に於て彼が早く主の職に従事したるより彼の無喜なる生涯のこそ彼が数千の人々を暗より眞の信仰の基たるキリスト、イエスに導かんが

爲永遠の福音に於る愛を以て東西に奔走し勞を厭はざりしこそ彼が忠實に證をなすに當りて公然たる敵と偽りの兄弟より種々の苦難迫害感激を受けしこそ神の力によりて護られ遂に此等の苦難迫害等に打勝ちしこそ彼は榮光と尊貴を常に神に歸し凡ての人々又常に之を神に歸すべきこと等親しく之を見聞せし人々によりて述べられたり

斯くて集會終りしや彼の遺骸は會友之を昇ぎ會友其他多くの人々によりてパンヒルフヒールツ近傍なる會友の墓地に送られたり是處に嚴肅に主を待ち會葬者一同に其神の靈と力即ち此聖なる神の人を起し之を助けて遂に終りて護り給ひし神の靈と力の導き保護を受けんことを勧めたる後彼の遺骸は敬しく地中に埋められたり然れども彼の記念は消ゆることなく何時までも義人の間に讃めらるべし

シヨルジ、フオックス傳終

明治廿七年二月廿八日印刷
明治廿七年三月四日發行

譯述者

東京市赤坂區仲ノ町廿二番地
岡田松生

發行者

東京市京橋區出雲町一番地
福永文之助

印刷者

東京市芝區宮本町二十九番地
石崎安藏

發行所

東京市京橋區出雲町一番地
警醒社書店

印刷所

東京市芝區宮本町二十九番地
共益商社印刷部

新 刊 書

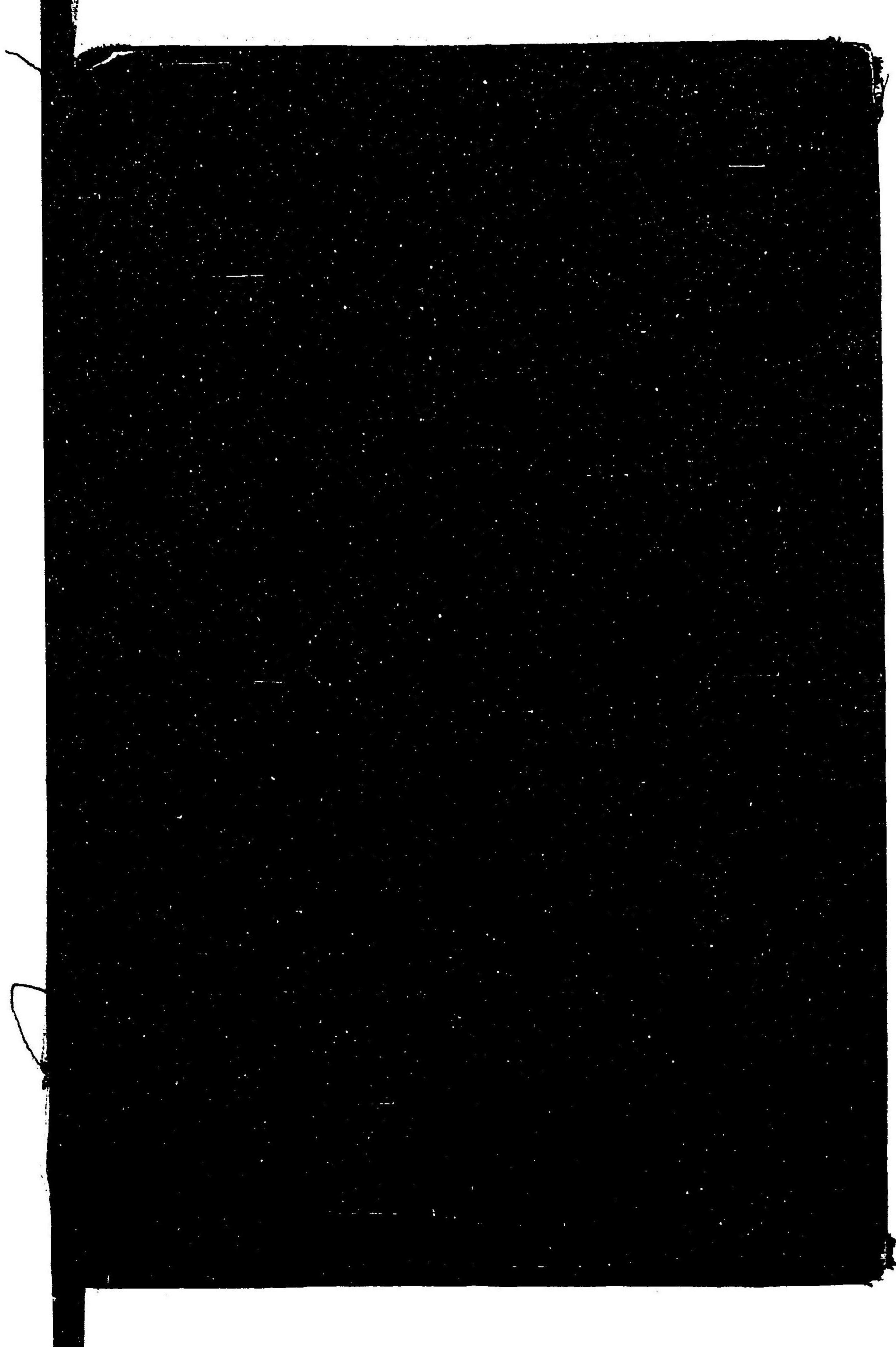
此書係由
山東省立
圖書館
代印

大 賣 捌 所

大 横 神 西 熊 高 博 廣 名 仙 信 若 函 札 和 岸 岡 今
坂 戸 京 本 知 多 島 屋 臺 田 松 館 幌 山 田 山 治

福 福 福 好 世 積 積 青 大 河 宮 福 上 福 本 復 八
音 音 音 文 光 善 善 年 塚 下 世 星 音 生 木
會 會 會 堂 堂 支 支 會 出 會 堂 堂 舍 店 舍 堂 舍 堂 堂

71
209



71
209

021212-000-0

71-209

フォックス伝

岡田 松生/訳

M27

ABI-1096



